



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

学 内 広 報

for communication across the UT



特集：

■「東京大学目安箱」、投書 130 件突破！
—あなたのギモンに答えます—



130TH

THE UNIVERSITY OF TOKYO

2007.10.15

No.1364

「東京大学目安箱」、投書130件を突破！

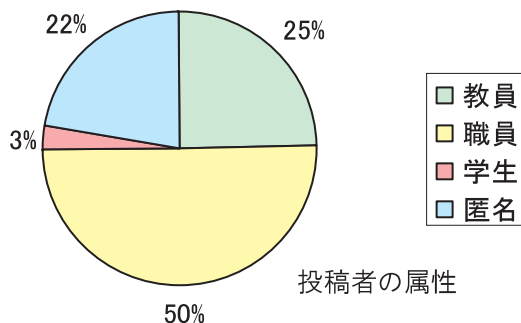
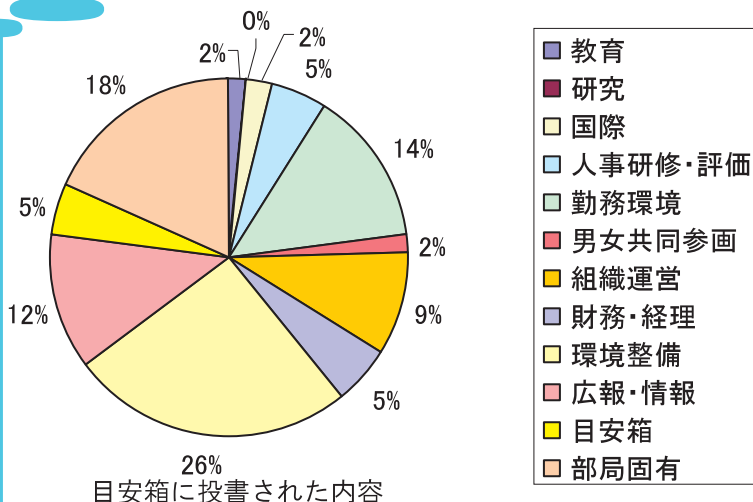
— あなたのギモンに答えます —

昨年夏の「東京大学目安箱」の設置から1年あまりが経過しました。この間、総長・役員に対して業務改善や職場環境に関する130件を超える投書がありました。目安箱の投書がきっかけとなって具体的な改善に結びついた事例も少なくありません。そこで、今回の特集では、「目安箱にはどんな投書が来ているの?」「本当に総長や役員が読んでいるの?」といった、目安箱に関する疑問にお答えします。

【目安箱設置の経緯等については、学内広報No.1341（2006年7月26日号）もご参照ください】

問い合わせ先：総長秘書室（内線：22004）

こんな投書が来ています！



キャンパス環境整備に関する投書（違法駐輪、分煙対策など）（26%）、勤務環境（休暇、レクリエーションなど）（14%）、広報・情報（学内広報、ポータルサイトなど）（12%）についての投書が多く、目安箱のあり方に関する投書（5%）もいただきました。また、部局固有の課題についても多くの投書（18%）があり、当該部局に対応をお願いしました。

投書者の半数が職員で、学生からの投書もあります。

では、目安箱ではどのようなやりとりがされているのでしょうか？ 3件の投書と、それに対する回答をご紹介します。※投書・回答につきましては、内容を変えない範囲で編集しています。

附属病院前歩道の舗装について

Q 龍岡門からのバス通りの歩道ですが、石畳の隙間に靴のヒールが入り込み、靴をだめにするだけでなく、転んで怪我をしてしまいます。患者さんが転倒する場面に遭遇したこともあります。医学部附属病院の「患者さまの声」ボックスにも、苦情の投函が何度かあります。

病院勤務の、また患者さんやお見舞いにみえる多くの女性が同じ気持ちであることは間違いありません。是非改善を望みます。

A ご指摘の石畳の隙間につきましては、石畳の隙間（目地）を埋めていた砂が雨などで流れ出てしまったために出来たものと思われ、歩行者の安全確保優先の観点から、現在、改修も含めた対応策の検討をメーカー等を交えて進めております。対策費用の確保など諸条件もございますが、確保され次第対策を講ずる予定にしております。

（回答後、8月に工事を実施し改善しました）

弥生門の開門時間について

Q 現在、弥生門は朝7時にならないとあきません。朝早く来る教員から、何とかならないかという問合せが参りました。わざわざ龍岡門や学士会分館脇までまわらなければならない不便を言われております。「本郷地区の門を閉めることで学内の治安が格段に向上する」という理由で、あけっぱなしにはしていただけないということでしょうか。何とか出入りの自由を確保していただけないかどうか伺いたします。

A ご要望のありました弥生門の開門につきましては、ご指摘の通り、午前6時から午前7時の間について、根津方面からの入構が他方面に比べて不便であることから、検討の結果、8月1日より小扉の開門時間を午前6時に繰り上げることといたしました。

（さらに、夜間の開門についても要望があり、担当部署で検討中です）

特別企画 小宮山総長 インタビュー

—— 総長の発案で始まった目安箱ですが、投書を読んだ感想や手応えをお聞かせください。

小宮山 多くの投書をいただき、感謝しています。私も総長室にこもらず、機会があるたびに学内のいろいろなところを回っているつもりですが、やはり一人では限界があります。いろいろなご意見をいただいて、よりよい大学作りを活かしていきたいと考えています。

—— 総長・役員の方はすべての案件に目を通していらっしゃるのですか？

小宮山 投書に対する回答は、秘書室の職員が担当理事・副学長と相談しながら作成しています。月1回、役員懇談会で目安箱について報告があるの

で、私もその際にすべての投書に目を通し、対応について具体的に指示しています。役員懇談会では投書に関し、さまざまな議論が交わされています。

投書内容に対してはかなり前向きで丁寧な対応ができていると思いますが、スピード感に欠ける点は改善していきたいですね。

—— 匿名の投書には回答していませんが、どう活かしていらっしゃるのですか？

小宮山 回答先がわからないので回答は作成しませんが、匿名だからといって軽視することはありません。むしろ、遠慮なしに伝わってくる教職員の方の生の声として尊重しています。



—— 目安箱にどのような投書を期待されますか？

小宮山 東大を良くしていくために、ふと感じた疑問点や、思いついた改善提案など、いろいろなご意見をお寄せください。

—— 小宮山総長、お忙しい中インタビューへのご協力ありがとうございました。

技術職員の英文表記について

Q 国際連携本部が公表している「東京大学における職名等の英文表記」によりますと、技術職員は「Technical Support Staff」です。この「Support」という単語が非常に気になります。

我々技術職員はTechnicalな「Support Staff」であれば良いのでしょうか？技術職員にとって、業務のサポートは勿論必須ですが、それに加え、自主性を持って創造性・独創性を発揮していく事が求められているのではないのでしょうか？

A ご質問の「技術職員」の英文表記につきましては、平成17年度版の公表後から同様のご意見をいただいていた。平成19年7月の見直しでは、「技術職員=Technical Staff」と修正いたしました。

の回答

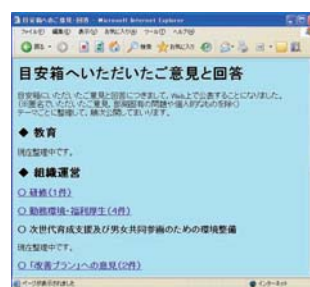
目安箱 ができるまで

Webサイトや箱に投書していただいたご意見は、総長秘書室に直接届きます。秘書室の職員が担当部署と状況確認や対応方策の検討を行い、担当理事・副学長と相談しながら回答を作成の上、投書者の方に回答いたします。

匿名投書の場合は、内容に応じて担当部署に改善依頼・情報提供します。

月1回、役員懇談会で総長・理事・副学長がすべての投書（匿名のものを含む）に目を通していただきます。その際に総長から具体的な指示をいただきます。

目安箱@Web、準備中！



画面イメージ（制作中）

総長秘書室では、目安箱への投書内容と、投書に対する回答を紹介するWebサイトを制作中です。

近日公開予定、乞うご期待！

目安箱ってどこにあるの？

東京大学目安箱は、Webサイトから投稿することが可能です。
（東京大学トップページ→教職員・学生の皆様へ→目安箱 または <http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/gakunai/gen/gen6/meyasubako/top.html>）

また、本郷キャンパス（山上会館1Fロビー）、駒場キャンパス（アドミニストレーション棟2F廊下）、柏キャンパス（物性研究所1Fロビー）には投書用の箱が設置されており、こちらに投書していただくことも可能です。
（様式は自由ですが、なるべくお名前・連絡先をご記入ください）



柏キャンパス・物性研究所ロビーに設置された目安箱

NEWS

一般ニュース

部局長の交代

新部局長紹介

大学院経済学研究科・経済学部

伊藤 元重 教授

(任期：平成 19 年 10 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)



昭和 49 年 3 月
経済学部卒業
昭和 53 年 7 月
ロチェスター大学大学院経済
学部博士課程修了
平成 5 年 12 月
教授（経済学部）
所属：現代経済専攻
専門分野：国際経済学
研究内容

(代表的な著書や論文等)：

- ・『日本の空を問う』(共著、日本経済新聞社)
- ・『ビジネス・エコノミクス』(日本経済新聞社)
- ・"Welfare Enhancing Export Subsidies," (with K. Kiyono) Journal of Political Economy, 1987.
- ・Disequilibrium Trade Theories, "(with T. Negishi), Harwood Academic Publishers 1987.
- ・Economic Analysis of Industrial Policy, (with K. Kiyono, M. Okuno, and K. Suzumara), Academic Press, 1991.

部局長退任の挨拶

経済学研究科長を退任するにあたって

前大学院経済学研究科長・経済学部長
植田 和男

しばらく大学の外にいて戻ってきた矢先に研究科長にされ、戸惑いつつも 2 年がたちました。この間の感想としては、思った以上に法人化後の大学の運営が大変だということ、またその中でも総長をはじめ、本部、各部局の多くの方々に大変助けられたという点です。前から感じていたことですが、専門を異にする他部局の方々から得られる耳学問には多忙な雑事の中のおアシス的な面があります。

経済学研究科の周辺では、公共政策大学院、大学院金融システム専攻、金融教育研究センター、金融学科の立ち上げに加えて、新しく始まったいくつかの寄付講座の運営、新建物建設計画をめぐる様々な方々とのご相談などが重なった時期でした。繰り返しですが、お世話になった方々に厚く感謝いたします。今後をにらみますと、こうしたインフラ的な側面の整備が進めば進むほど、それらを用いて大学本来の教育研究の質をいかに上げていくかという点が第一の課題であるはずで。この点、経済学研究科だけでなく東京大学全体としての一段の発展を心から祈っています。

東京大学生命科学研究ネットワーク

東京大学生命科学研究ネットワーク・シンポジウム 2007「生命科学・知の構造化」

9 月 15 日(土) 午前 9 時 30 分から安田講堂及び工学部 2 号館において生命科学研究ネットワーク主催により生命科学研究ネットワークシンポジウム 2007「生命科学・知の構造化」が開催されました。シンポジウム全体の参加者は、本学の大学院学生を中心に教職員及び一般の聴講者等、合わせて約 800 名にのぼり盛況のうちに無事終了いたしました。

シンポジウムは、安田講堂を使用した講演の部、安田講堂及び工学部 2 号館を使用したポスターセッションの部から構成されました。

講演の部では、松本生命科学研究ネットワーク長(シンポジウム実行委員長／工学系研究科長)の開会挨拶を皮切りに、「植物の鉄栄養遺伝子を活用した不良土壌耐性作物の作出」と題した農学生命科学研究科・西澤直子教授からの講演、「組織幹細胞の分離・培養と医療への応用」と題した宮島篤分子細胞生物学研究所長の講演、「原始細胞モデルへの構成的アプローチ」と題した総合文化研究科・菅原正教授の講演と続き、それぞれ活発な質疑応答があり午前の部を終えました。

およそ 3 時間半のポスターセッションの時間帯を挟み、午後 3 時 10 分過ぎから、小宮山宏総長の特別講演「生

命科学・知の構造化」に続き、「動物プランクトンの多様性と全海洋センサス」と題した海洋研究所・西田周平教授の講演、「プログラム細胞死から見た細胞社会」と題した薬学系研究科・三浦正幸教授の講演、「遺伝暗号リプログラミングを駆使した新創薬技術 PAPID システムの創成」と題した先端科学技術研究センター・菅裕明教授の講演が行われ、生命科学の最先端の講演に受講者も熱心に聞き入っていました。講演の最後は佐久間一郎教授（シンポジウム実行委員会幹事／工学系研究科）の閉会挨拶で講演の部は終了となりました。



小宮山総長講演（安田講堂）



ポスターセッションを視察する小宮山総長（工学部2号館）

ポスターセッションの部では、博士学生を含む若手研究者を中心に、昨年度を上回る 327 題の演題登録があり、安田講堂回廊、同 4 階ロビー、工学部 2 号館フォーラム、同展示室の 4 会場で発表を行ないました。ポスターセッションは昨年度に引き続き、研究科ごとではなく生命科学の研究分野ごとに展示し、類似した研究分野を持つ研究者同士で、部局を越えた交流および活発な議論が繰り広げられ、学内における生命科学研究者間のコラボレーションとコミュニケーションが大いに図られた 3 時間半

となりました。

また総長は、シンポジウム実行委員会幹事の案内でポスターセッション会場を熱心に回られ、その後の講演の際にも「今後も学内における生命科学研究者のコミュニケーションの場としてこのシンポジウムを開催し、生命科学の研究組織に関する課題の解決策の検討、および生命科学研究者に共通する話題についての議論を行っていききたい」との挨拶がありました。



ポスターセッション会場（工学部2号館）

本部研究推進グループ

「東京大学稷門賞」授賞式を举行

一般

平成 19 年度「東京大学稷門賞」の受賞者が、福武総一郎様、黒田哲也様、昭和シェル石油株式会社様及び住友商事株式会社様の 4 件に決定し、授賞式が 9 月 18 日（火）17 時 00 分から山上会館大会議室において举行された。本表彰は、私財の寄附、ボランティア活動及び援助等により、本学の活動の発展に大きく貢献した個人、法人又は団体（現に在籍する本学の教職員及び学生は原則として対象外）に対し授与するもので、今年度より年 1 回行うこととしている（平成 18 年度まで年 2 回）。授賞式においては、選考結果の報告、各受賞代表者への表彰状及び記念品の贈呈があり、その後、総長の挨拶、受賞者からの挨拶が行われた。また、授賞式に引き続き、レセプションが行われ、受賞関係者と本学関係者との懇談が和やかな雰囲気の中で行われた。授賞理由は以下のとおりである。

◎ 受賞者

1 福武 総一郎様

授賞理由：同氏は、高度情報化社会における教育・研究・文化・コミュニケーション研究の世界的発信拠点となるべき建物建設のために、巨額の私財を本学に寄附され、その結果、来年 2 月竣工の目処も立つに至った。これは、情報学環だけでなく、全学の教育・研究活動の一層の充実に大きく貢献するものである。なお、

この建物は「情報学環・福武ホール」と名づけられる。



福武 総一郎様及び推薦部局関係者、総長

2 黒田 哲也様

授賞理由：同氏は、基金の運用益で大学の様々な事業を積極的に支援する東京大学基金の趣旨に賛同され、巨額の私財を本学に寄附された。この寄附は用途を特定しないものであって、今後大きく発展し本学を支えていくべき同基金にとってまことに重要な基礎となるものであり、本学の教育・研究活動の一層の発展に大きく貢献するものである。



黒田 哲也様及び推薦部局関係者、総長

3 昭和シェル石油株式会社様

(代表者：代表取締役会長 新美 春之様)

授賞理由：同社は、平成 17 年以来本学の基金への寄附を継続して実施され、さらに、同社発足 10 周年を記念して設立された財団法人昭和シェル石油環境研究助成財団の解散に際しては、その多額の残余財産を本学の基金に寄附するために尽力された。この寄附は、用途を特定しないものであって、今後大きく発展し様々な形で本学を支えていくべき同基金にとってまことに重要な基礎となるものであり、本学の教育・研究活動の一層の発展に大きく貢献するものである。



昭和シェル石油株式会社様及び推薦部局関係者、総長

4 住友商事株式会社様

(代表者：代表取締役社長 加藤 進様)

授賞理由：同社は、平成 17 年度以降、人工物工学研究センターにおける「価値創成イニシアティブ（住友商事）」寄付研究部門の設置・運営のために支援され、その結果、同研究部門は、多数の文理融合の学内連携研究推進のハブとなり、センターの研究総合力と商社のビジネス総合力の融和による新たな知見の共有に多大の寄与をなしている。これは、本学の活動の発展に大きく貢献するものである。



住友商事株式会社様及び推薦部局関係者、総長

本部学生支援グループ



東京大学創立 130 周年記念親善レガッタ、開催される

9 月 23 日（日・祝）、戸田オリンピックコース（埼玉県戸田市）において「東京大学創立 130 周年記念親善レガッタ」が開催された。

本大会は海外大学学生との国際文化交流及びスポーツ交流を目的として、東京大学運動会が本学創立 130 周年を迎えるに際して企画した国際交流試合の主要企画であり、本学漕艇部が以前遠征で訪問し交流の深いブ

リテッッシュ・コロンビア大学（UBC、カナダ）、野球・ラグビー等他の運動部が定期戦を行なっているソウル大学（SNU、韓国）及び京都大学を招待し実施された。なお本大会は今年で第58回を数える伝統の「東京大学・京都大学対校競漕会（京大戦）」との同時開催で行なわれた。

大会に先立つ21日（金）には、「高等教育のあり方」についてをテーマに、4大学による国際交流プログラムが行われた（於・薬学系総合研究棟）。濱田理事・副学長の挨拶、漕艇部OBである野崎大地准教授の基調講演の後の4大学のプレゼンテーションでは各大学の特徴が如実に現れていた。パネル・ディスカッションでは同じくOBである村澤義久特任教授の進行の下、自由闊達な意見が交わされ、有意義な時間となった。

23日の大会当日は、あいにくの曇空であったが涼やかな秋風の吹く絶好のボート日和の下、小宮山総長、濱田理事・副学長、山田理事、古田運動会理事長もご来席され、本学漕艇部OBはじめとする観客及び応援部の勇壮な応援の中で、大会は行なわれた。

親善レガッタは、歴年世界レベルの大会で好成績を残し、オリンピック選手も多数輩出するUBCが他大学に圧倒的な差をつけての勝利に終わった。2位争いでは序盤本学も優勢を見せていたが最終的に京都大学に逆転され3位となった。



親善レガッタにて他を圧倒した漕ぎを見せたUBCクルー

しかし、続く京大戦の男子エイトレースでは、大差をつけて本学が5年ぶりの勝利をおさめた。本年度全日本大学選手権準優勝（男子エイト）を果たしたクルーを輩出し幾多の対戦において本学と火花を散らしてきた名門・京都大学に勝利したことは本学漕艇部の今後の活躍に期待を持てる結果と言える。また親善レースに先立って行なわれた京大との男子フォアレースでも勝利した。



京大戦の勝利で歓喜の声をあげる本学エイトクルー

親善レガッタに優勝したUBCには記念クリスタルが、レースに参加した各大学には記念ペナントがそれぞれ贈

られ、お互いの健闘を称えこれからの永い親交を誓い、盛会のうちに閉幕した。

国際交流試合はこの後、10月21日（日）にハンドボール部（於・御殿下記念館）、12月末に剣道部（於・七徳堂）が、ソウル大学を対戦校として開催予定です。こちらも是非ご来場いただき選手にご声援下さい。

また、漕艇部においても学内者を対象として、「第54回水上運動会」を開催予定です（12月2日（日））。是非ご参加いただき今度は自身で漕艇競技を楽しんでみてはいかがでしょうか。

国際交流試合、水上運動会については、東京大学運動会ホームページで随時情報更新して行きますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（運動会 HP：<http://www.undou-kai.com/>）

【主な大会結果】

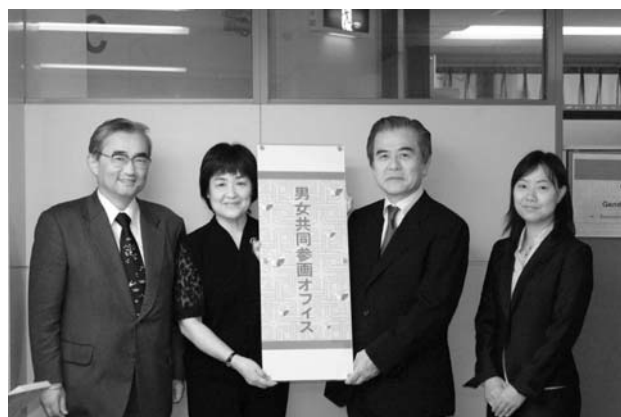
競技名	1位	2位	3位	4位
京大戦女子クオドルプル	京大	東大		
京大戦男子フォア	東大	京大		
130周年記念親善レガッタ	UBC	京大	東大	SNU
京大戦男子エイト	東大	京大		

一般

男女共同参画室

男女共同参画オフィスが本部棟9階に新設されました！

平成19年度の文部科学省科学技術振興調整費（女性研究者支援モデル育成）が採択されたことに伴い、本年9月、『男女共同参画オフィス』が本部棟9階にオープンしました。そして、都河明子特任教授（兼）女性研究者支援コーディネーター、渡井いずみ特任助教（兼）女性研究者相談室相談員、中村和代事務員、窪島結子事務員の4名が配置されました。



看板上掲式
左から辰野理事、都河特任教授、小宮山総長、渡井特任助教

本学では、平成15年12月“東京大学・男女共同参画宣言”を発表し、『男女共同参画基本計画』が策定され

ています。この基本計画を推進するための実施体制として総長直轄の「男女共同参画室」(現室長:村嶋幸代医学系研究科健康科学・看護学専攻長)が平成18年4月にスタートしました。この組織は教員および事務職員からなり、同室のもとに「勤務態様部会」、「環境整備部会」、「進学促進部会」の3つが設置され“女性研究者の研究継続の保障”と“女性研究者の裾野拡大”に重点を置いた具体的な取り組みを開始しています。

男女共同参画オフィスでは、科学技術振興調整費を申請した実施計画に沿って次のプロジェクトを進めています。1)プレキャリア10年の支援[女子学生数を増やすために中高校生向けイベント開催や冊子作成等]、2)キャリア確立10年の支援[キャリア支援では女性研究者比率の数値目標設定。ライフ支援では結婚・子育てしながらも研究継続できる支援]、3)“東大女性研究者白書”作成、4)女性研究者の国際性を育む支援[国際シンポ等を開催]等です。特に、女性研究者の数値目標を達成するためには各研究科長および研究所長のご協力がぜひとも必要です。どうぞよろしくお願いいたします。

このオフィスは女性だけのものではありません。ワークライフバランスを考えながら男女共に働きやすい環境を作っていきたいと思います。就業支援の相談員(看護師・助産師の有資格者)もおります。皆さん又はご家族の子育て上の不安や悩みがありましたら、気楽にご相談下さい。

部局 ニュース

大学院農学生命科学研究科・農学部

“弥生インターナショナルデー2007”
の開催

毎年行っていた留学生の懇話会・懇親会イベントを、今年は“弥生キャンパス内国際交流を深めるための機会”として、“弥生インターナショナルデー(YID)”と名付け、7月25(水)に開催しました。

このイベントではまず、午後に留学生・日本人学生の講演を行い、その後夕方から懇親会を行いました。15時より、農学部1号館の8番教室において、生源寺研究科長の挨拶に続き、国際交流室と留学生支援グループメンバーの紹介後講演会が行われました。7人の留学生と2人の日本人学生の講演がありました。バングラデシュ出身の学生は今まで過ごした母国とタイ・日本の文化、伝統、生活などの違いを比較し、これをパワーポイントで発表していました。エチオピア、ネパール、ミャンマー、およびパキスタン出身の学生からも、パワーポイントによる発表でそれぞれの国の紹介がありました。日本と遠

く離れた国ですが、エチオピア語と日本語の文法が似ていることに皆さん驚いていました。素晴らしい自然豊かなネパールや、ミャンマーのボパ山の伝統、パキスタンの古代文明(インダス川)の文化に皆さん感激でした。インドネシア人学生(6人組)は、竹の Angklung という楽器の演奏を行い、中国人学生からは中国の歌が紹介されました。日本人学生は2人ともパワーポイントで発表しました。1人は自分の留学中の経験と、日本で外国人留学生と交流しているときの事について話しました。それとは無関係ながら日本のラーメンの特徴も紹介しました。日本のラーメンの様々な種類と、それぞれの独特の味と材料の詳しい説明を受け、留学生の皆さんはびっくりしていました。もう1人は、日本の季節ごとに変わる花、風景、祭りなどを紹介しました。特に今年4月に来日した留学生にとっては、この説明は大変参考になり、これからの季節の変化とそれに伴う花の移り変わりなど、それぞれの特徴に興味を持たせる内容でした。全員英語で話し、パワーポイントを使いながらの説明が大変分かりやすく、参加者から好評を博しました。発表会は17時過ぎに佐々木国際交流室長の閉会の辞で終わりました。65人を超える留学生、研究員、教職員、日本人学生、農学部日本語の会のボランティアなどが参加しました。



講演者の皆さんと国際交流室員の皆様

その後、18時から農学部生協食堂で懇親会が開催されました。佐々木国際交流室長の挨拶があり、石井国際交流室員の乾杯の音頭で懇親会が開始されました。弥生地区以外の農学部施設で学ぶ留学生にとって、この機会は、弥生地区の学生と交流できる貴重な機会であり、皆さん日本の料理を味わいながら、時間を忘れて懇談していました。留学生、日本人学生、研究員、教職員、農学部日本語の会のボランティアなどを含め105人を超える人数が参加したにぎやかな会となりました。19時半過ぎ、小野国際交流室員の挨拶で閉会となりました。



懇親会参加者の集合写真

8月2日（木）・3日（金）、本郷キャンパス内で、小中学生を対象にした「夏休み航空宇宙工学教室 2007」を航空宇宙工学専攻教職員・学生により開催し、85名の子供の参加があった。初日、飛行原理の説明の後、ペットボトルロケットとゴム動力飛行機の工作を行い、翌日は、農学部グラウンドと体育館で実際に飛ばして、飛距離や滞空時間を計測した。台風の影響で風が強く、ペットボトルロケットの飛距離は伸びなかったが、大空に飛び上がったロケット、体育館中を飛び回った模型飛行機を自分たちで作ったという体験が子供たちの夏の思い出となった。本企画は本年で6年目であり、今回は東京応化科学技術振興財団の第2回「科学教育の普及・啓発助成」事業として援助を受けた。なお、航空宇宙工学専攻は、こうした一連の航空宇宙工学の実践的教育の実施により平成18年度工学教育賞「文部科学大臣賞」を受賞した。



閉会式での集合写真と活動の様子

留学生センター日本語教育集中・特別コース 2007 年度夏学期の修了証書授与式が、8月2日（木）15時30分から赤門総合研究棟2階202講義室で行われた。

このコースは、文部科学省から依頼された国費研究留学生（大使館推薦）を主たる対象とするコースで、今期は、今年4月に初級から上級までの合計68名を受け入れて開講、そのうち64名がコースを修了し、修了証書を授与された。

授与式には、平尾副学長をはじめ関係教職員と修了者が出席、平尾副学長の挨拶に続き、坂野留学生センター長から修了者一人ひとりに修了証書が手渡され、次いで、日本語教育部門主任の菊地教授から講評が述べられた。続いて、アブラル ジュハル モハモドさん（初級代

表）、オクタヴィアニ カシオ ボンテスさん（中級代表）、ソニヤ エンチェヴァ エネヴァさん（上級代表）の3名の受講生から日本語によるスピーチがあり、約4か月という短い間での日本語のすばらしい上達振りが披露された。楽しいスピーチを聞き、和やかな雰囲気の中に式は終了した。

式終了後、引き続き、山上会館にところを移して、修了者を囲んでの懇談会が行われた。平尾副学長は懇談会にも出席され、修了者達と懇談され、ねぎらいの言葉をかけられた。今後は各研究科に分かれて専門の研究に専心することになる修了者たちは、クラスごとに教員を囲んで写真撮影をしたり、クラスメート同士名残を惜しみつつ歓談するなどしていた。こうして、楽しい時を過ごすうち、閉会となった。

なお、今期の修了者64名の所属は以下の10研究科、出身は以下の33の国または地域である。

◆研究科

情報理工学系研究科	10
医学系研究科	8
学際情報学府	8
総合文化研究科	8
農学生命科学研究科	8
工学系研究科	7
新領域創成科学研究科	7
人文社会系研究科	3
法学政治学研究科	3
教育学研究科	2

◆国または地域

タイ	8	インド	1
ブラジル	7	イタリア	1
韓国	7	ヨルダン	1
マレーシア	5	モンゴル	1
オーストラリア	2	ミャンマー	1
カナダ	2	ネパール	1
中国	2	ナイジェリア	1
ドイツ	2	パナマ	1
ニュージーランド	2	ペルー	1
パキスタン	2	ロシア	1
ポルトガル	2	シンガポール	1
ベトナム	2	台湾	1
アルゼンチン	1	トルコ	1
ブルガリア	1	アメリカ合衆国	1
カンボジア	1	ベネズエラ	1
エチオピア	1	イエメン	1
フランス	1		



修了式記念写真

大学院工学系研究科・工学部

航空宇宙工学専攻、工学教育賞 「文部科学大臣賞」受賞

航空宇宙工学専攻では、システム統合化能力を備えた人材育成活動の一環として、「航空宇宙工学の設計・製作・飛行による実践教育」に取り組んでいます。このたび、飛行ロボットや小型衛星における設計・製作・飛行活動の教育活動への導入、ならびに同活動の全国的な展開、および小中学生への啓蒙活動などが、社団法人日本工学教育協会が選定する工学教育賞において、工学教育の質的向上に寄与する平成18年度の最も優秀な業績として認められ、8月3日（金）に開催された年次大会において「文部科学大臣賞」を受賞しました。



工学教育賞「文部科学大臣賞」の賞状とトロフィー

大学院農学生命科学研究科・農学部

附属牧場の新しい種牡馬を紹介します

8月27日（月）朝、（社）日本軽種馬協会下総種馬場（千葉県富里市）から、ヒシアケボノ（サラブレッド種牡馬）が附属牧場（茨城県笠間市）に到着した。新しい環境が不安を誘っているのか落ち着かない様子だ。しかし、ベテランの厩舎技術職員が手際よく引率し、馬房に入ると

不安を一掃したのか気に入った様子。まずまずのスタートである。見事な黒鹿毛、体重は580kgと体格は立派だが、非常におとなしい。



雄叫びを上げるヒシアケボノ

ヒシアケボノは、1992年生まれの米国産、父はウッドマン、母はミステリーズである。母方の父は、シアトルスルー、米国で17戦14勝をした強者である。ヒシアケボノの主な成績は、米国での代表馬、米国3冠馬、米国2・3歳馬チャンピオンを初めとし、日本国内の中央競馬では29戦6勝〔スプリンターズS（GI、1995年12月）やスワンS（GI、1995年10月）など〕して、現在種牡馬（スタリオン）としても現役である。

今回の措置は、（社）日本軽種馬協会が所有する種牡馬の飼養管理及び種付け事業の預託先を探していたことがきっかけで、吉川泰弘牧場長初め関係者との協議の末、同協会のご厚意により、当牧場で受託することになったものである。

これまで当牧場の種牡馬として活躍してきたのが、ウィナーズサークルである。ウィナーズサークルは、茨城県産の芦毛（白色の体毛）で、1989年5月に開催された第56回日本ダービーで優勝した。その後、北海道見石町で種牡馬生活が続けていたが、2001年故郷の茨城県に帰ることとなり、生産者である栗山牧場が繋養先を探していた。丁度、当牧場でも種牡馬を探しており、タイミングと縁が重なって、同年1月に引き取るようになった。それから再び種牡馬生活が続けてきたが、1986年生まれといえ、人間の60歳以上に相当するので、受精能力も衰え、また、昨今地方競馬場が閉鎖に追い込まれるなど厳しい状況の中で子供達は芳しい成績も残せておらず、行く末を案じていた。

今後、ウィナーズサークルは、現役を引退して功労馬としての養老生活を歩むことになる。



牧場のシンボルであるサイロとウィナーズサークル

医学部附属病院

「附属病院 大震災対応への一斉防災訓練」実施される

9月4日（火）13時30分から、「附属病院 大震災対応への一斉防災訓練」が入院棟A、B、中央診療棟2等において約400名の教職員と約100名の医学部学生の参加により行われた。傷病者役の医学部の学生たちには特殊メイクが施され、治療を受ける側で実体験をしてもらい、将来治療する側に立ったときに役立ててもらえるようにした。今回の訓練計画は、昨年までの取組みを基本ベースに、環境安全本部や生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センターとの共同研究の成果を取り込んで、立案された。想定としては、東京に大規模直下型地震が発生し、地震の影響によって、入院棟A12北から出火、B棟6階の壁に亀裂発生、マグニチュード7・震度6強の震災により、附属病院に多数の負傷者が運ばれたという内容で実施された。地震発生後直ちに、災害対策本部が入院棟A1階レセプションルームに設置され、初期消火、患者の避難誘導、各病棟のフロアチェック、トリアージ（※）及び救急外来アクションカードの運用、ライフラインチェックを実施し、全学災害対策本部との相互連絡を行い最後に模擬記者会見を行った。



モニターで状況確認中の災害対策本部



はしご車での入院棟A非難訓練風景

災害拠点病院に指定されている医学部附属病院は、地域の医療救護活動の重要な拠点となることが期待されている。電気、通信、上下水道等のライフラインに大きな被害が生じた場合であっても、限られた医療機能を最大限に利用して、負傷者への医療救護活動を行うことが強く求められている。附属病院では、今回の防災訓練の反省・提案事項を参考に、今後始まる緊急地震速報への対応や、一層の防災意識の高揚を図ることとしている。

※トリアージ（triage）

医療機能が制約される中で、一人でも多くの傷病者に対して最善の治療を行うため、傷病者の緊急度や重症度によって治療や後方搬送の優先順位を決めること



廊下の臨時ベッドで処置中の模擬負傷者

大学院農学生命科学研究科・農学部

安全衛生管理室が移転お披露目式を開催

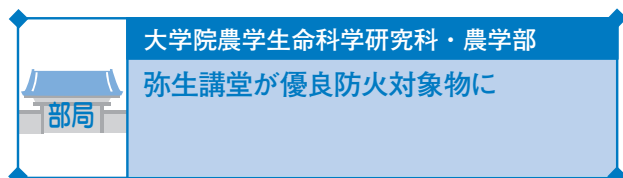
大学院農学生命科学研究科安全衛生管理室は、これまで同研究科3号館1階にある事務部室内で活動していたが、手狭ということもあり、このたび念願の専用部屋として3号館142号室に移転し、9月7日（金）に盛大なお披露目式を催した。



真新しい看板を掲げる生源寺研究科長と太田室長

当日は台風により天気が心配されたが、台風一過晴天に恵まれ、小山環境安全本部副本部長や、尾張環境安全研究センター長をはじめ多数の来賓にご出席いただき、生源寺研究科長の挨拶の後、142号室に真新しい安全衛生管理室の看板が掲げられた。

大学院農学生命科学研究科では今年度から全研究室に教育研究安全衛生マネジメントシステムを導入しており、リスクアセスメントを積極的に進め、災害防止対策に取り組むためにも、安全衛生管理室が果たす役割に大きな期待が寄せられている。



平成12年3月に竣工した農学生命科学研究科の弥生講堂が、このほど優良防火対象物として認定され、9月25日（火）、本郷消防署において認定書の授与式が行われた。本学からは生源寺農学生命科学研究科長、小山環境安全本部副本部長、井上農学系事務部長ほかの関係者が出席し、本郷消防署の白井署長から生源寺研究科長に認定書が手渡された。

今回の優良防火対象物の認定は、本学としては初めてのことで、国立大学法人としても第1号となる快挙である。認定を受けるに当たって、弥生講堂の防火設備が高水準にあることが確認されるとともに、農学生命科学研究科に編成された自衛消防隊が、初期消火から通報・避難誘導といった実技に優れているとして、高く評価された。研究科としては、弥生講堂が多くの利用者や近隣の住民の皆さんから末永く敬愛されるよう、今後とも優良防火対象物として適切な維持管理に努めてまいりたい。



優良防火対象物認定書を授与される生源寺研究科長

＝ 特集テーマ&執筆部署募集告知＝ 特集の記事を 執筆してみませんか？

学内広報では巻頭特集の記事テーマとその執筆部署を募集しています。学内への周知を図るためのツールとして特集はとても効果的です。皆さんの部署でも、ぜひ特集の記事を執筆してみませんか？

1. 制作方法

① テーマの選定

全学の教職員を読者対象とするテーマを選定することになっています。まずは本部広報グループに気軽にご相談ください。特集に馴染まないテーマでない限り、対応します。

（締切日の1ヶ月前までに一度ご相談ください）

② 内容・構成の決定

テーマが決まったら執筆部署と学内広報編集スタッフ（以下、編集スタッフ）が打ち合わせをしてページの内容を決めていきます。見開き2ページをひとつの単位とします。内容が盛りだくさんの場合は4ページ、または6ページで構成することもあります。

③ 原稿の執筆

決定した構成に合わせて執筆部署に原稿を書いていただきます。字数等は編集スタッフが提示します。原稿はWordファイルでご制作下さい。

④ ビジュアル要素の提供

特集に盛り込む写真・図・イラストを執筆部署から提供していただきます。手持ちの写真がない場合は編集スタッフが撮影にうかがいます。

⑤ デザイン

お書きいただいた原稿、ご提供いただいた写真・図等を素材にして、編集スタッフがページデザインを作ります。もちろん、執筆部署でデザインを作っていただいてもかまいません。

⑥ 校正

デザインしたページイメージをお送りしますので、主に文字校正を行なっていただきます。

⑦ 完成

刷り上げた学内広報は、執筆部署に多めに配布します。

2. 締切日

こちらから期日を申しますので、ご協力をお願いします。通常の学内広報の切日（第1月曜日）の**前週の水曜日**を原稿締切日とします。

3. 問い合わせ先・原稿提出先

本部広報グループ 広報企画チーム
TEL：03-3811-3393 内線22031
E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

最近、学内に「〇〇機構」だとか、「〇〇ネットワーク」などという新しい組織が次々と誕生しているのをご存知ですか？実はこれらは、総長室が推し進める「知の構造化」の流れを受けて生まれた部局横断的な教育・研究組織なのです。先月からスタートしたこのコラムでは、総長室総括委員会（委員長：岡村定矩理事・副学長）の下にある全学的な研究組織を、研究機構等支援グループの職員がインタビュー形式で紹介していきます。

総長室総括委員会とは？

近年の学問の急速な発展、法人化後の大学業務の多様化などを背景に、従来のような部局中心の教育研究では変化に対応するのが難しくなってきました。例えば、複数の部局にまたがる領域横断的な教育研究プロジェクトや、総長の強いリーダーシップの下で全学として推進すべき重要プロジェクト、また、大学として一元的に実施する必要がある環境安全などの業務は部局だけではできません。そのため、2004年度に室、本部、機構、ネットワークといった組織を総長室直轄で設置することになりました。総長室総括委員会は、それらの新しい組織をまとめる、全体の教授会のような役割を担っています。

INTERVIEW

ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構長 荒川 泰彦 教授 (先端科学技術研究センター、生産技術研究所)

今月ご紹介するのは、ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構長、荒川泰彦先生です！当機構は平成18年10月に発足後、協働企業4社（シャープ、NEC、日立製作所、富士通研究所）による「東大企業ラボ」の設置、新たな人材育成の試みなど、様々な改革を行っています。また数々の賞を受賞し、今年の6月5日（火）には産学連携活動の成果が認められ、内閣総理大臣賞を受賞するなど、今注目の機構です。

Q. 機構発足の経緯は？

荒川 昨年度、科学技術振興調整費の先端融合領域イノベーション創出拠点プログラムの一つとして「ナノ量子情報エレクトロニクス連携拠点」プロジェクトが採択されました。ナノテクノロジー、量子技術、情報技術、これらを融合した新しい学問領域を、「産」と「学」が連携して創るという構想です。その際、本学に多数ある部局の枠を超えた新しい組織を作ることが大変重要なポイントでしたので、それを実現させる機会として、総長室総括委員会の下での機構発足となったわけです。

Q. 具体的な活動内容は？

荒川 我々の機構は「次世代ナノエレクトロニクス」、「ナノ量子情報エレクトロニクス」「量子情報科学技術基盤」の3部門で構成され、それぞれにおいて研究開発を行っています。本機構は、高い学術的価値を有する研究成果を世界に発信するとともに、イノベーションすなわち経済的価値を創出できる、ナノ量子情報分野の世界研究拠点となることを目指しています。

このために、産業界、及び国内外の大学等との強い連携を積極的に図っています。そういう意味で世界的にリンクを張った産学連携研究拠点といえます。

Q. さまざまな改革が行われているそうですが？

荒川 一つ目として、6つの部局、4つの企業にまたがって組織を形成するという従来にない新しい試みを行っています。ここでは東京大学内に各部局の教員が兼任教員として集結、さらにそこに各協働企業が「東大企業ラボ」を設置するという体制をとっています。また、東大で初めて企業の中にも東大の研究室を設置しました。場を共



有して新しいテーマに取り組み、大学の学術と産業の技術力を融合することにより、イノベーション創出を図っています。これは、新しい概念として新聞報道などにも取り上げられまして、それなりにインパクトを与えていると思います。

二つ目として、人材育成について。研究者の直接的育成のみならず、そのシーズとしての学生教育にも力を入れます。

普通はそれぞれの部局・専攻で縦割りの教育を受けているわけですが、それをむしろ横串にしたような横断的な教育プログラムの試みを開始しました。その中で、これから後期にかけて予定していますが、企業に学生が赴き、そこで1日企業の研究者と議論したり、講義や



意見交換ができるミニインターンシップを、今年についてはNEC、日立、富士通の3社で、集中講義としてそれぞれやってもらいます。

最後に三つ目ですが、知財の面については、産業界がよりコミットしやすいような環境や条件を、機構と産学連携本部の方で整えていくことですね。全学的に見て、やや特区的な扱いにさせていただくかもしれません。

Q. 10月24日と25日には、シンポジウムを開催されるそうですね？

荒川 今回のシンポジウムでは、各教員や研究者による成果発表に加えて、小宮山総長、奥村直樹総合科学技術会議議員、各企業の研究開発担当執行役員の講演・パネル討論が行われます。ここでは産学連携のあり方について議論します。ぜひ皆さんにも参加いただきたいと思います。詳細は機構のホームページに記載されていますが、ホームページは、その他につきましてもかなり充実した内容となっておりますので、ぜひ一度ご覧ください。

Q. 今後の目標は？

荒川 私が1982年に提案した量子ドットというナノ構造が、25年を経て、サイエンスとして、またエンジニアリングとしても成熟してきました。特に、量子ドットレーザーについてはベンチャー企業化までに至り、社会に対しても経済的な価値を生み出すことになり、目標の第一歩を達成しました。今度は、この量子ドットをベースにして、量子暗号通信や量子コンピューター技術を社会にもたらしたいと思っています。そのためには、東京大学のリーダーシップの下で、ナノ量子科学技術を確立し、情報技術やナノエレクトロニクスへの展開をはかるとともに、この分野における人材育成を行うことが必要となります。

(インタビュー：山縣・神谷)

●ホームページ●

ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構
<http://www.nanoquine.iis.u-tokyo.ac.jp/>

問い合わせ先：本部研究機構等支援グループ（内線21387）
総長室総括委員会HP：<http://cirp.u-tokyo.ac.jp>

「さすてなTimes」
第2弾！

サステナな日々

～キャンパスから考えるサステナビリティ～

vol. 2

エネルギー管理チームに聞く、東大の省エネ事情

今年7月に起きた新潟県中越沖地震に伴う柏崎刈羽原子力発電所の運転停止により、8月中旬の関東地方の電力需給は、ギリギリの綱渡り状態でした。ちょうどこの時期は、最高気温が35℃を超える「猛暑日」が続き、東大でも契約電力を超過してしまいました。エアコン無しでは生活できなかった今年の夏、もし停電していたら...と考えると恐ろしいです。

さて、そんな今年の夏は省エネについて考える良い機会だったのではないのでしょうか？今回は、本部環境グループエネルギー管理チームのお仕事と東大の省エネ事情をご紹介します！サステナブルキャンパスの実現に向けて、まずは身の回りの省エネから始めてみませんか？

エネルギー管理チームの仕事を一言で表現すると、「エネルギーマネジメントの推進役」でしょうか。具体的には、東京大学で使用する電力・ガス・水・重油の消費を調査・分析することにより、大学にとって最適な運用を目指しています。

例えば、東京大学で年間の電力はどれくらい使用しているかご存知ですか？なんと約3億kWhで、一般家庭の約8万世帯分に相当します。そして電気料金は35億円にもなります。これだけのエネルギーを消費しますので、省エネルギー・省コスト化は大学の経営面にとってとても大切なことです。エネルギー管理チームでは、例えば以下のような活動を行っています。

- 安価な電力・ガス契約
消費形態に応じた最適な契約方法の検討
- 省エネ対策工事
変圧器や照明器具などを高効率形に更新
- 夏の週間電気予報の配信
1週間の電力需要を予測して節電の呼びかけ
- クールビズ／ウォームビズポスターによる啓発
東京大学のオリジナル



今年夏期に掲示されたポスター

それから、チームの大きな仕事としては地球温暖化防止への取組があります。現在、東京大学主要キャンパスでの温室効果ガス排出量は、圧倒的に電力消費によるものです。

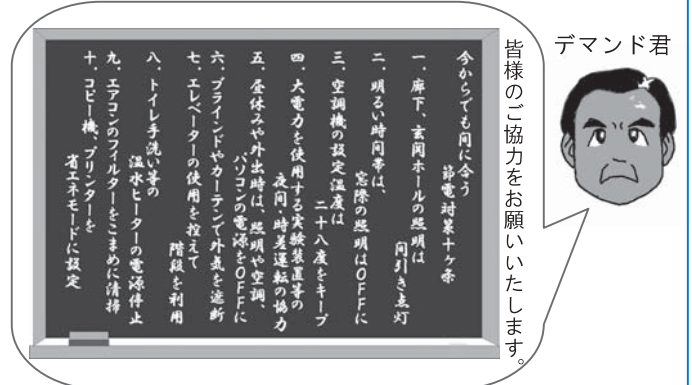
サステナ（サステナビリティ：持続可能性）とは？

「環境の世紀」と呼ばれる21世紀の科学技術、経済システムを語る最重要キーワード。地球社会を持続可能なものへと導くビジョンを構築するための基礎となる新しい超学的な学術が「サステナビリティ学」（sustainability science）である。

サステナビリティ学連携研究機構（IR3S）HPより
<http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp/top.html>

このコラムは、サステナビリティ学をキャンパス、そして個人のライフスタイルへと結びつけることを目指しています。

教育・研究活動の高度化による電力増加が予測されますが、今後は温室効果ガス排出量削減のために省エネ・省コスト化のみでなく、より積極的な取組が求められています。チームの総力あげて知恵を絞り皆様一人一人の協力を得て、サステイナブルキャンパス実現を目指したいと思います。



→本部施設・資産系環境グループ エネルギー管理チーム
energy@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

東大トリア 本郷キャンパスで電力使用が多い部局
附属病院、工学系研究科・工学部、理学系研究科・理学部

本部 研究機構等支援グループ 蔭山 達矢

今月のサステナさん

我がグループで編集を担当していることもあり、第1回目の「サステナさん」に登場させていただくことになりました。

今年の夏は暑かったですね！多くの観測地点で過去最高気温を記録したことも記憶に新しいことと思います。また、北極の氷の面積が過去最小を記録し、離岸した氷が北極海全体で回転運動をしていることも先日報道されていました。

さて、これだけ温暖化防止が叫ばれているにもかかわらず、京都議定書で約束したCO₂の6%削減目標は達成どころか、逆に増えてしまっているのは御存知でしたか。実態はあまり知られていないようにも思いますが、いよいよ温暖化を実感できるレベルまで来てしまったかと思う印象です。

では私自身、低炭素社会に向け、CO₂削減に貢献しているのかというとドライブも好きですし、正直自信の持てない状態ですが、取り組んでいることの一部を紹介します。

◎チーム・マイナス6%に加入

◎生ゴミを堆肥化して家庭菜園（有機栽培）に使用

◎我が家をエコハウスヘリフォーム中

（太陽光発電の設置、高断熱材への交換、高気密サッシへの交換、木材の再利用）

◎映画「不都合な真実」東京大学上映会の企画運営
（まだ観ていない人は是非観てください。）

リフォームに関しては、私個人のブログでも公開していますので、是非一度遊びにきてください。

→サステナブルなエコライフ

<http://sustainable-eco-life.blogspot.com/>

問い合わせ先：本部研究機構等支援グループ（内線21387）

投稿
募集中！

デマンド君の顔の変化に注目！





9月19日（水）、前回連載にメッセージを掲載させていただいた山田理事と共に、海洋研究所へ伺って東大基金についてお話をさせていただきました。お忙しい中にも関わらず、所長を始め、教員・職員の方々総勢50名ほど集まっていたいただき、「東大基金」をさらに深く知ってもらうとても良い機会となったと思います。

第6回はその時のお話を元に、私なりにみなさまへ東大基金が必要な理由について説明させていただきます。

東京大学基金がなぜ必要か？

まず、下の表1をご覧ください。2007年度予算における東京大学の収入の内訳です。

現在東京大学の収入は、約半分を運営費交付金が占めています。しかしご存知のように、毎年運営費交付金が減らされていく中、青字で示してある産学連携等研究収入及び寄付金収入が、今後さらに大切な役割を持っています。この中に、東京大学基金も含まれます。

国立大学法人東京大学の収入
※2007年度予算

	※単位:億円
・運営費交付金	849(42%)
・学生納付金等(授業料など)	168
・附属病院収入	318
・施設整備費補助金等	8
・ 産学連携等研究収入及び寄付金収入	345(17%)
・他収入	61
・科研費	263
・収入予算総額	2,011(100%)

表1

世界の有力大学間の「基金規模比較」

	基金	運用益	年間経費	学生数
ハーバード大学	3.3兆	4,000億	3,600億	18,318
エール大学	2.1兆	4,000億	2,300億	11,380
ケンブリッジ大学	9,000億	700億	1,900億	17,803
東京大学	30億		2,000億	27,863

表2

次に表2の世界の有力大学間の比較をご覧ください。意外にも、年間経費や学生数に大きな差はないことがお分かりかと思えます。しかし、その基金の差となると、とても大きなものです。

国立・私立・州立に関わらず、世界の大学はその基金の運用益でもって年間経費に充てていますが（ハーバードやイエールに至っては運用益だけで年間経費を超えています！）東京大学は、今ようやく基金を積み上げ始めたところなのです。

では基金を集めたところで、実際何にそんなに使われるのか、と思われるかもしれません。

しかし、東京大学が戦略的に必要とするお金を挙げると、まずアクションプランの実行に年間約300億円必要となっています。また、キャンパスの長期修繕計画にも約10億円、交付金減額への対応として約10億円が必要で、合計すると年間約320億円にもなります。

また、アクションプランをいくつか実行した場合、例えば奨学金制度の充実に14億円、留学制度の充実に15億円、キャンパスの国際化に11億円、それぞれかかります。また職員に身近なところでは、事務支援システム構築に6億円、保育施設の設置には1億円必要です。これらの費用を捻出するためにも、東大基金としてお金を積み上げることは、とても重要なのです。

東京大学基金の現状
～UT130の達成に向けて～

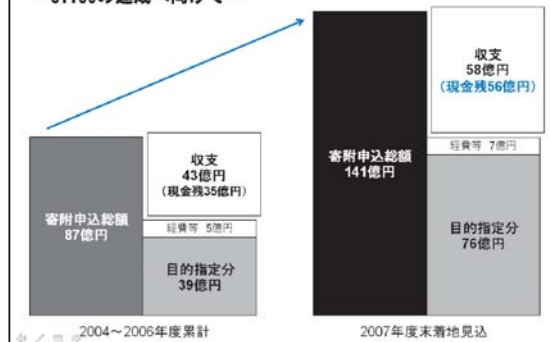


表3

現在、みなさまのご協力のお陰で、約90億の寄附金が集まりました。しかし、表3にあるように、内半分が予め用途が指定されているものです。実際に運用に回せるものは、まだ50億円に満たない状況です。前に述べた、320億円を運用益から捻出するにも、まだ運用ができる程貯まっていなのが現状なのです。

東大基金がなぜ必要か、理解いただけたでしょうか。残り半年、全ての教員・職員・学生のために活用できるような基金を目指して、尚一層みなさまのご協力・ご支援をいただければ幸いです。

何か疑問な点がありましたら、お気軽にお問い合わせください。また、ご要望があればいつでも会議等にお邪魔して東大基金のご説明をさせていただきます！（鈴木）

基金最新情報

5,682件 9,543,448,634円

(内教職員 1,741件)

(9月25日現在申込)

教職員参加率 23.9%

連絡先: 渉外本部 鈴木
電話: 内線21744(外線03-5841-1744)

HP: <http://utf.u-tokyo.ac.jp/>

※「東京大学トップページ」上で「東京大学基金」をクリック

産学連携協議会 平成19年度第1回(通算6回)ABM 開催

東京大学産学連携協議会アドバイザーボード・ミーティング(ABM)報告

9月10日(月)、平成19年度第1回産学連携協議会アドバイザーボード・ミーティング(ABM)が本部棟12F会議室で開催されました。ABMは、理事長である小宮山総長と、大学側理事、産業界アドバイザーが、産学連携に関わる事項について意見交換を行う場です。

6名の産業界アドバイザー、三木繁光氏(㈱三菱東京UFJ銀行会長)宮原賢次氏(住友商事㈱相談役)、和田紀夫(日本電信電話㈱会長)岡村 正氏(㈱東芝会長)、渡 文明氏(新日本石油㈱会長)、西山 徹氏(味の素㈱技術特別顧問)のうち、出席された4名のアドバイザーの方々(左下写真参照)と、小宮山総長以下、藤田産学連携



議論の途中に笑いが起こり、和やかな雰囲気



写真右から三木繁光氏(㈱三菱東京UFJ銀行会長)、宮原賢次氏(住友商事㈱相談役)、和田紀夫氏(日本電信電話㈱会長)、西山 徹氏(味の素㈱技術特別顧問)

本部長を含む協議会理事7名の出席のもと活発な議論が行われました。

最初に西山氏より「東京大学への期待」をテーマにプレゼンテーションが行われました。キャッチアップ型からフロントランナー型の人材育成、大学基金の創設などの提案がありました。産学連携本部が行うProprius21については、高い評価をいただきました。さらに展開として、Proprius21に経団連や、他大学の参画の提案もありました。

その後、東京大学側からの提案をもとに議論は白熱し、予定時間を過ぎてても話が尽きないほどでした。

イノベーション・ジャパン2007盛況に終わる

大学発「知」の見本市、開催

9月12日(水)~14日(金)まで、イノベーション・ジャパン2007ー大学見本市が、東京国際フォーラム(有楽町)で開催されました。3日間で4万人を超える人たちが来場し、盛況に終わりました。なかでも企画プログラム「産学連携による人材育成のすゝめ」(主催:経済産業省)「大学知的財産本部成果還元祭」(主催:文部科学省)は多くの人たちが聴講し、関心の高さをうかがわれました。

展示ブースは、最先端研究成果257、大学産学連携本部70、TL018の展示がありました。産学連携本部のブース前には、常時2名の説明員が立ち訪れる人たちに説明を行いました。前日に配布される日経産業新聞の産学連携広告特集にProprius21の広告を出し、広報活動を行いました。



展示会場(左)、新聞広告(中央)、産学連携本部の展示ブース(右)

産学連携デザインキューベーションルーム 入居者募集中!

産学連携本部では、産学連携デザインキューベーションルームへの入居者(本学との関係の深いベンチャー企業、本学の研究・教育成果を基に起業を目指す個人)を募集しています。



入居をご希望の方は、**10月25日(木)必着**で申請書類をご提出ください。募集要項等、詳しくはホームページをご覧ください。産学連携本部まで直接お問い合わせください。

【概要】

- ・居室面積:47.6㎡/室
- ・賃料:月額95,200円
- ・共益費:月額47,600円
- ・保証金:285,600円(賃料の3か月分)
- ・利用期間:原則1年間
- ・オフィスとしての利用のみ可能(実験不可)

連絡先:産学連携本部(産学連携グループ) 電話:内線22857(外線03-5841-2857)

ホームページ:<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

※「東京大学トップページ」上で「産学連携本部」をクリック

橘 由里香

科学技術インタープリター養成プログラム特任講師

取材の心得

先日、趣味で行っているスポーツの全日本大会で優勝した。久しぶりにマスコミの取材を受ける側になったのだが、媒体に応じて自分の話したいことよりも記事にしやすいことを無意識に選んで話しており、職業病だな、と苦笑した。私は理学部地球惑星物理学科を卒業後、朝日新聞の記者をしていたのである。自分に専門性が足りないのを痛感して大学院に舞い戻り、理学の学位取得後、縁あって2年前に始まったこのプログラムの専任講師をしている。授業には模擬記者会見なども取り入れているが、学生に「もっとバカな質問をして!」と注意することもしばしばである。東大の学生は、最近、頭が悪くなってきたと言われようと、賢くて知的好奇心がある者が多い。授業では、ある学生に自分の研究で素晴らしい成果が出たという想定で記者発表してもらい、他の学生に科学記者として質問をしてもらうのだが、どうしても知的で科学オタクな質問に傾きがちな。つまり、自分の知的好奇心を満たそうとしてしまい、科学に素人な読者が知りたいレベルのことを聞かないのだ。これは、科学者側にも言える。記者が的を射た質問をして、高度に専門的な話ができると、非常に気分がいい。が、媒体に応じて、「難しくても正確な記述を重視するのか」「重要な研究というイメージを伝えるのが最重要なのか」など、自分で説明のさじ加減を変えられる方が、「取材者のレベルが低くて、自分の意図と違うことを書かれてしまった」と嘆くよりもストレスにならないはずである。今回、「勝因は?」という質問に、専門誌や専門番組に対してはテクニックについて思いの丈を話したが、地元紙には「最後までよく動いてくれました」程度にして、「素晴らしいコースだったので、来年もまた来たいです」とまとめた。見出しになりそうな材料も提供した。そのおかげか、美人とハンサムに写っている写真も大きく掲載してくれた。今日び、取材を受ける側も、多少の気遣いがあった方が得なのである。



筆者に勝利をプレゼントしてくれた
パートナー
フリーダム・ダイバー号

★科学技術インタープリター養成プログラム

URL:<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/STITP/>

コミュニケーションセンターだより No.40

■新商品のご紹介

東京大学コレクションに新たな一冊が加わりました。総合研究博物館にて9月2日(日)まで行われておりました「遺丘と女神—メソポタミア原始農村の黎明」展の図録の販売を開始致しました。大掛かりな展示で大人気だった企画展の図録です。是非一度お手にとってご覧下さい。
*現在総合研究博物館にての展示は終了しております。



■「遺丘と女神」 ●販売価格：3,000円(税込)

■UTCCスタッフ紹介

～Part10～

久しぶりの学生スタッフ紹介コーナーです。「学内広報出たでしょ!」とお声を多数頂きスタッフ一同喜んでおります。これからも店頭にてどんどんお声をお掛け下さい!



工学部 建築学科 長嶺 知江

私のおススメ商品は「ブロックメモ」です! 思い付いたことを書き留めたり、買い物メモとして持ち歩いたり、重宝しています! 最近のUTCCでは、月毎にスタッフのおススメ商品コーナーを作っております。今月のおススメにもなっているこの商品、じわじわと人気が出てきています! 皆様もオフィスやご自宅のデスクにいかがでしょうか?

(担当: コミュニケーションセンター 吉岡)



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

OPEN: 月曜～土曜 10:30～18:30
電話: 03-5841-1039
<http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp>

ワタシのオシゴト 第20回

Rings around the UT

分子細胞生物学研究所 機能形成研究分野
西條（及川）栄子さん

実験好きにはこたえられない職場です

私の所属する分子細胞生物学研究所は、弥生キャンパスにあります。私がこちらの機能形成研究分野に所属して4年目になりました。現在のところ、技術職員には異動がないので、これからもずっとここにいたいと思います。

教室系技術職員の仕事内容は、おもに実験の補助です。具体的には、動物の細胞を培養したり、遺伝子の配列を読んだりしています。生物が相手の仕事ですので、うまく行かないことも多々あります。しかし、信頼できる結果が出たときの喜びは、他に代え難いものです。



実験用ベンチにて



ゆかいな研究室のなかまたちと

研究室には、非常に個性的な面々が揃っていて、まったく飽きることがありません。日頃の飲み会や、ソフトボール大会やボーリング大会などのレクリエーションを通じて、研究室の連帯感は日々深まっています。楽しい職場ですが、「東大職員」は自分しかいないというところが少しさみしいですね。研修などを通じて、横のつながりも増やしていきたい今日このごろです。

出身地: 神奈川県

自分の性格: お調子者

次回執筆者のご指名: 石垣秀雄さん

次回執筆者との関係: 心の友

一言紹介: お仕事でガムに行ける、ウラヤマシイ方です

ニュースページ、 インフォメーションページ への記事提出要領

「学内広報」は皆さんから送っていただく記事で作られています。下記の提出要領により、積極的に学内の情報をお寄せください。

1. 提出方法

記事は、各部署の広報担当者を通して、メールの添付ファイルとしてデータで送付すること。

2. 締切日

原則として毎月第1月曜日を原稿の締切日とする（配布は翌週の金曜日）。ただし祝日等により変更となる場合があるため、本学HPの左下にある「学内広報アイコン」をクリックして、発行スケジュールを確認すること。

3. 提出の際の留意事項

(1) 文字数

文字数は記事1件につき800字を目安とし、内容により増減は可とする。

(2) 写真

- ① 写真を掲載する場合はキャプション（説明文）を25文字以内で添えること。
- ② 写真を電子データで提出する場合、Wordファイルなどに貼り付けず、jpeg等の形式による元の画像ファイルを送付すること。
- ③ 写真は電子データがない場合、プリントのものも掲載可とする。

(3) 書式

- ① 原稿は1行25文字の書式で作成すること（ただし、大きな図表などが含まれる場合は、この限りではない）。
- ② 原稿のはじめに担当部署名と記事タイトルを記載すること。
- ③ 記事タイトルは極力簡潔でわかりやすいものとする。

(4) 文章表現のきまり

- ① 句読点は「、」「。」を用いること（「，」「．」は用いない）。
- ② 時間は24時間表記とし、日付には括弧書きで曜日をつけること。
- ③ この他、特に表記する必要のない「平成●年」は削除する、特に支障がない限り「東京大学」は「本学」とする等、表記統一のための修正を編集段階で行う。

※編集スケジュールの都合上、原則として校正はできません。基本的にはいただいた原稿がそのまま掲載されますので、内容に間違いのないよう、十分ご注意ください。

4. 問い合わせ先・提出先

本部広報グループ 広報企画チーム

TEL: 03-3811-3393 内線22031

E-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp



東大OB明石顕選手世界陸上50km競歩で16位

本学陸上部出身の明石顕選手（総合警備保障）が、大阪で行われた陸上競技世界選手権50km競歩に出場しました。暑さが続いた大会も終盤となった9月1日（土）の朝7時にスタート。気温26度、湿度も低めで幾分過ごしやすい状況でのスタートでしたが、徐々に気温は上がり最終的に32度を超え、予想通りの酷暑耐久レースになりました。コースは競技場横にある公園内の1キロの道を行ったり来たりするもので、競歩では審判の関係でこうした往復コースとなるのが通常です。暑さを考えてかレースはスローペースで始まります。



明石選手は前回同様後ろから追い上げる展開ですが、序盤で17位前後の集団につけます。日本の山崎選手が前半に先頭に出て盛り上がります。明石選手は中盤にかけて少しきつくなってきて順位が下がり25位前後になりました。しかしここで辛抱していると、中盤を過ぎて徐々に元気が戻り彼本来の粘りが出てきて応援している方も安堵します。前半とばした山崎選手に1周差に追いついて抜き返した時に一緒に行こうと声をかけていたシーンが、テレビを見ていた多くの方に印象深かったようです。



終盤も粘りを発揮してさらに順位を上げて日本人トップで16位4時間2分31秒でゴール。場内インタビューを受け、大きな拍手をもらった姿には涙が出ました。これでヘルシンキ大会の15位に続き2大会連続で16位以内となりました。16位とはトラックで言えば準決勝進出相当です。今回は有力選手が軒並み失敗しましたから、ヘルシンキから続けて16位以内相当の結果を出したのは、他に福士選手など数人しかいません。それだけ価値の高い結果で、北京への道が近づきました。50キロ競歩がテレビ中継され、山崎選手には気の毒な事件も起きてしまいましたが、競歩の認知度がかなり上がりました。明石選手を応援していただいた皆さんありがとうございました。本人は足の故障があったりで快心のできではなかったこともあり、これに満足することなく北京への道を進んでいくことと思います。

（東大陸上部前監督 総合文化研究科 八田秀雄）





教育学部附属中等教育学校、 水泳・陸上で全国大会出場

本校5年（高校2年）の木下綾乃さんが、水泳の高体連関東大会において、400m個人メドレーで準優勝した。そして、8月18日（土）、19日（日）に行われた、全国高校総体（開催：佐賀県）において、200mバタフライと、400m個人メドレーに出場した。400m個人メドレーでは、4分47秒で6位の成績をおさめた。大会前に腰を痛めてしまい、ベストタイムが出ない悔しい大会であった。実際に競技に出て、上には上がいることを実感し、この悔しさを来年にぶつけたいと抱負を述べた。また、この大会で自分の足りないものがわかったので、それを日々の練習で克服し下級生にも負けないようにしていきたいと決意を新たにした。

本校2年（中学2年）の高橋広夢さんが、8月8日（水）、9日（木）に行われた、陸上の中体連関東大会（茨城県笠松運動公園競技場）の共通男子1500mにおいて、4分10秒で優勝した。残り50mまで4位であったが、ラストが得意なので、ラストまで集団についていくレースはこびで勝つことができよかったと述べている。全国大会では、納得のいく成績はおさめることができなかったが、次の9月にある都大会で優勝して、来年の全国大会で良い結果を出したいと言っている。さらに、都道府県駅伝大会（広島県で開催）の東京都のメンバーに選ばれるように、練習していきたいと抱負を述べてくれた。



水泳で活躍している木下綾乃さん



陸上で活躍している高橋広夢さん

教育学部附属中等教育学校で 银杏祭、実施される

9月14日（金）～16日（日）まで、本校において第48回银杏祭が行われた。初日は中野ZEROホールにて開会式が行われ、東京高等学校OBの方と本校有志による「東高音頭」「英語でミュージカル」「心とからだ（沖縄芸能）」「演劇」「民俗芸能」など、17の団体が舞台で学習の成果を披露した。本祭は、天候にも恵まれ、初日約1700人、2日目約2000人とたくさんの来校者となった。総合教育棟では、3、4年生の課題別学習、5年生の宿泊研修の展示、6年生の卒業研究の発表会、演劇部公演などが行われた。また、本校舎では、1、2年生の総合学習入門の展示、生物部、天文部などの展示、一般参加団体の催しが行われた。



開会式での民俗芸能の発表

今年度のテーマは、「Ability」で、生徒の一人ひとりが自分の持つ「Ability」を発揮することが期待された。银杏祭委員長の5年生近藤沙紀さんは、「誇れる文化祭として全力で盛り上げていきましょう」と述べていた。

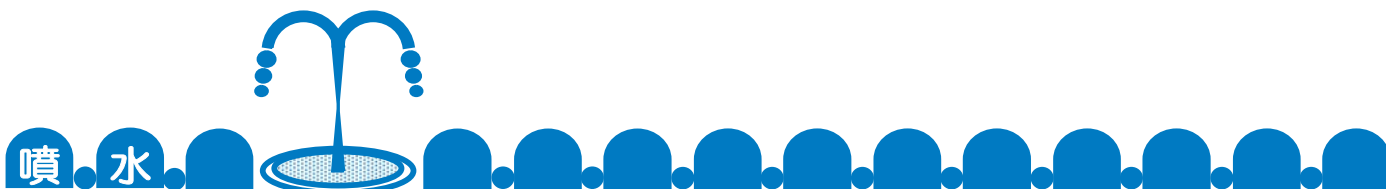
また、银杏祭顧問の井口成明教諭は「一人一役」を合言葉とした。生徒は、自分の担当以外の場所（装飾など）の手伝いもしたりするなど、快く来校者を迎える準備を行っていた。閉会式で、各グランプリが発表された。以下に第1位を表記する。

<開会式PR部門>キミとお菓子工場、<開会式部門> Jack pot、<総合学習部門>卒業研究、<食品部門> MILK HOUSE、<ポスター部門>管弦楽部、<部活動部門>管弦楽部、<一般参加部門>訳ありアリスのプロポーズ、<学校長賞>地球は蒼かった…

■総合グランプリ 第1位 管弦楽部 第2位 キミとお菓子工場 第3位 2年総合学習



2年生総合学習発表の様子



新たなコミュニケーションの機会に ～先端研で RCAST 屋台村営業中！

キャンパスの緑には恵まれています、食事場所の選択肢は限られている感のある駒場Ⅱキャンパス。そこにこの3月から RCAST 屋台村が出現しています。営業は週2回のお昼休み。それぞれ2台ずつ計4台即ち4種類の屋台が空腹を抱える人たちの行列をさばっていきます。

3ヶ月を目処に屋台を入れ替えているので、10月現在は3クール目。これまで、タコライス、キムチ丼、インドカレーと焼き立てナン、モツ煮込みに手作りローストビーフ、さらには沖縄料理やオムレツ、ロコモコ丼など私たちのランチタイムに彩を添えてくれています。お値段もほとんどが600～800円程度とお手ごろなこともあって、毎回、屋台村を心待ちに通っているリピーターも多いようです。

作り立てをいただけるのも屋台ランチの良いところ。出来上がりを待つ間、屋台村の人や列の前後に並ぶ人と話をしたりする楽しみもあります。そして、熱々のランチボックスを手にした後は、14号館1階の先端研カフェ、あるいはお天気がよければ木陰の下へ。いつもと少し違うランチは、新しいコミュニケーションの機会になったり、午後の仕事のリフレッシュにもなっているようです。



長い行列になることも

そもそものきっかけは、経営戦略企画室の担当者が、インターネットで探した屋台村を取り仕切る業者に声をかけたことに始まります。当初は採算が取れるほど利用者がいるか不安もありましたが、出店者にとっては場所代等の経費がかからないメリットに加え、いざ始めてみると昼休みが厳格で一定時間に集中してしまうオフィス街に比べ、フレキシブルな大学は多少の待ち時間であれば気にならない様子であること、人の集まり方も比較的分散してゆとりのある接客ができること等から、概ね好評のようです。

火曜日か木曜日に先端研にお越しの方は是非、RCAST 屋台村を体験してみてください。

(先端科学技術研究センター経営戦略企画室)

INFORMATION

シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会

生産技術研究所、大学院総合文化研究科・教養学部

第3回駒場キャンパス技術発表会 開催のお知らせ

生産技術研究所ならびに大学院総合文化研究科・教養学部で共催しております技術発表会を、下記の日程で開催いたします。今年は共催後初めて駒場Ⅰキャンパスで開催いたします。

この発表会は、生研ならびに総合文化研究科・教養学部の技術職員で組織する実行委員会が企画、運営しており、駒場事業場に勤務する技術職員どうしの技術交流の場としても大いに活用されております。

今年度は9件の口頭発表と1件のポスター発表が行われます。このほかに東大内他部局の技術職員による招待講演として、物性研究所の技術職員による強磁場技術に関する講演と、また企業の技術者や研究者による特別講演として、精密機器メーカーの技術者・研究者による光学・電子機器関連企業の製造技術開発に関する講演を企画いたしました。

技術職員のみならず、多数のご参加をお願いいたします。また発表会終了後懇親会を開催いたしますので、併せて多数のご参加をお願いいたします。

開催日時：10月26日（金）10:00 開会

発表会会場：教養学部 18号館ホール（地図下記 URL 参照）
http://www.c.u-tokyo.ac.jp/jpn/kyoyo/map/campusmap_c_18.html

懇親会会場：コミュニケーションプラザ 3F 交流ラウンジ（地図下記 URL 参照）

http://www.c.u-tokyo.ac.jp/jpn/kyoyo/map/campusmap_cp.html

問い合わせ先：

第3回駒場キャンパス技術発表会実行委員長
谷田貝悦男（内線 58710）

e-mail yatagai@iis.u-tokyo.ac.jp

シンポジウム・講演会

大学院農学生命科学研究科・農学部

東京大学創立 130 周年記念事業 第 33 回東京大学農学部公開セミナー

大学院農学生命科学研究科・農学部では、以下の要領でセミナーを開催します。無料で、どなたでも参加できます。多くの方のご来場をお待ちしております。

第 33 回 東京大学農学部公開セミナー

『農学を創った人、農学が創ったもの』

司 会：農学国際専攻 溝口 勝 准教授

「外山亀太郎が興したカイコの遺伝学の今日的意義」

生産・環境生物学専攻 嶋田 透 教授

「エビの養殖について」

独立行政法人 国際農林水産業研究センター

Marcy Nicole Wilder プロジェクトリーダー

パネルディスカッション

農学を創った人、農学が創ったもの

日 時：11月3日（土）13:30～16:30

場 所：東京大学弥生講堂・一条ホール

東京都文京区弥生 1-1-1

地下鉄南北線「東大前」下車 徒歩 1 分

地下鉄千代田線「根 津」下車 徒歩 7 分

対 象：一般（どなたでも参加できます）

定 員：300 名（当日先着順）

参 加 費：無料

問合せ先：農学系総務課 総務チーム

総務・広報情報担当

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

電 話：03-5841-5484、8179

E-mail：koho@ofc.a.u-tokyo.ac.jp

※受講証を発行いたします。

ご希望の方は、120 円切手をご持参の上、当日受付でお申ください。

主 催：大学院農学生命科学研究科・農学部

共 催：（財）農学会

シンポジウム・講演会

大学院理学系研究科・理学部

第12回理学部公開講演会

「理学でのコミュニケーション」

コミュニケーションの語源、ラテン語の communicatio は「分かち合う」という意味があります。情報を分かち合い機能を進化させるコミュニケーションは、自然科学の様々な面に潜んでいます。自然の神秘をコミュニケーションというこれまでにない新たな視点からお話いたします。

日時：11月17日（土）14:00～16:30（13:00開場）

会場：法文2号館2階第31番教室

入場：無料 事前申し込み不要

*講演終了後、17:30まで講師、大学院生との歓談を予定しております。

講演内容：

動物のコミュニケーション—脳とホルモンのしくみ—

岡 良隆（理学系研究科生物科学専攻 教授）

宇宙文明とのコミュニケーション—銀河図書館構想—

祖父江義明（理学系研究科 名誉教授）

デジタル社会を支える数学

桂 利行（数理工学研究科長）

中継：インターネット配信を予定

（下記URLをご参照ください。）

問い合わせ先：理学部広報室

電話 03-5841-7585（内線 27585）

e-mail kouhou@adm.s.u-tokyo.ac.jp

URL <http://www.s.u-tokyo.ac.jp/PL12>

シンポジウム・講演会

東洋文化研究所

シンポジウム「第3回アジア古籍保全講演会」

東洋文化研究所では、昨年度に引き続きアジア古籍の保存に関する講演会を開催します。今回は紙とマイクロフィルムという基本的な媒体に改めて焦点を当てて、それぞれの性質と保存等に関して専門家にお話いただきます。

日時：11月20日（火）10:00～17:00

場所：工学部8号館1階・教授会室

内容：

「後期イスラム世界における紙と書物」

鈴木董（東洋文化研究所教授）

「東洋の紙の歴史」

宍倉佐敏（女子美術大学大学院非常勤講師）

「紙資料を修復すること」

増田勝彦（昭和女子大学大学院生活機構研究科教授）

「マイクロ資料の劣化—原因と対処」

安江明夫（国立国会図書館顧問）

◆事例報告「東洋文化研究所マイクロフィルム状態調査—A-D ストリップを用いて—」東洋文化研究所図書室

◆総合討論

参加を希望される方は、氏名・所属を明記して、11月13日（火）までに、メールで東洋文化研究所図書室（lib-info@ioc.u-tokyo.ac.jp）へ、お申し込みください。なお、詳細については東洋文化研究所図書室ホームページ（<http://institute.ioc.u-tokyo.ac.jp/~library/>）をご覧ください。

シンポジウム・講演会

物性研究所

創立50周年記念シンポジウム開催のお知らせ

物性研究所は1957年に東京大学附置全国共同利用研究所として設立されて以来我が国における物質科学の中核機関として活動してまいりました。2000年には、43年間活動を展開した六本木キャンパスから柏新キャンパスに全面移転し、本年50年目を迎えることとなりました。私どもは、これまでの半世紀の歩みを振り返るとともに、今後の発展に向けて以下の記念シンポジウムの開催を計画いたしました。皆様のご参加を心からお待ちしております。また、記念シンポジウム後に記念式典、祝賀会が予定されています。あわせてご案内申し上げます。

（1）シンポジウム1 「強相関電子系の新展開」

日時：11月29日（木）10:00～18:00

場所：物性研究所 大講義室（千葉県柏市柏の葉5-1-5）

内容：強相関電子系の最近の話題についての講演と今後の展開についての議論を行う。

講演者：鹿野田 一司（東大院工）、森 初果（物性研）、宇治 進也（物材機構）、北岡 良雄（阪大院工）、今田 正俊（東大院工）、廣井 善二（物性研）、榊原 俊郎（物性研）、倉本 義夫（東北大院理）、芳賀 芳範（原研）、木村 剛（阪大院工）、押川 正毅（物性研）、川島 直輝（物性研）、瀧川 仁（物性研）

(2) シンポジウム 2

「物性研究所—過去・現在・未来—」

日 時：11月30日（金）10:00～11:30

場 所：政策研究大学院大学 想海楼ホール（東京都港区六本木7-22-1）

内 容：「物性研究所の歴史と現状」

上田 和夫（物性研究所長）

「物性研究所の将来計画」

家 泰弘（物性研究所将来計画委員長）

「物性研究所に望む」

物理学会より 鹿児島 誠一（東京大学教授）

物性コミュニティより 倉本 義夫（東北大学教授）

共同利用から 秋光 純（青山学院大学教授）

(3) パネルディスカッション

「これから50年の科学は？」

日時：11月30日（金）13:00～15:00

場所：政策研究大学院大学 想海楼ホール
（東京都港区六本木7-22-1）

パネリスト：小宮山 宏（本学総長）、佐倉 統（本学大学院情報学環教授）、吉田 博（大阪大学産業科学研究所教授）、北澤 宏一（独立行政法人科学技術振興機構理事）、中村 桂子（JT生命誌研究館長）、茂木 健一郎（ソニーコンピュータサイエンス研究所上級研究員）

定員：約300名 参加費：無料

詳細：<http://www.issp.u-tokyo.ac.jp/50th/top.html>

参加申込：パネルディスカッション「これから50年の科学？」については事前に申込が必要
（<http://www.issp.u-tokyo.ac.jp/50th/top.html> より）

問合せ：上田 寛（物性研究所 教授）

E-mail: yueda@issp.u-tokyo.ac.jp

シンポジウム・講演会

東京大学21世紀COEプログラム「機械システム・イノベーション」

総括シンポジウム—機械工学が拓く未来：技術を極め、人を育てる—開催のご案内

平成15年度にスタートした本プログラムは、豊かな人間生活を実現するためのエネルギーとバイオ・医療の分野でのイノベーションを目標に機械工学の英知を結集すると同時に、これらの研究活動を通じて優れた人材の育成を目指して継続的な活動を行ってまいりました。また、これらの革新的機械システムの先導設計を可能とするために、機械システムの内外で生じるマルチフィジックス・マルチスケール現象のモデリングとシミュレーションの学術を飛躍的に進展させ、体系化することにもチャレンジしてきました。5年間の締めくくりとして、本拠点の教育研究活動に関する総括シンポジウムを下記日程で開催いたします。皆様方の御参加を心よりお待ち

しております。

総括シンポジウム

—機械工学が拓く未来：技術を極め、人を育てる—

日程：11月30日（金）

場所：工学部8号館1階教授会室（東京都文京区本郷7-3-1）

プログラム：

09:40～09:50 開会の挨拶（総長 小宮山 宏）

09:50～10:30 「機械システム・イノベーション」概要
（拠点リーダー 笠木 伸英）

10:30～11:30 広域プロジェクト研究Ⅰ：
エネルギー

（生産技術研究所 加藤 千幸）

革新的飛行ロボット

（航空宇宙工学専攻 鈴木 真二）

13:00～14:00 広域プロジェクト研究Ⅱ：

バイオ・医療

（産業機械工学専攻 光石 衛）

ハイパー・モデリング/シミュレーション

（機械工学専攻 松本 洋一郎）

14:00～15:30 人材育成：

専攻横断型教育プロジェクト

（機械工学専攻 酒井 信介）

博士課程インターンシップ

（機械工学専攻 金子 成彦）

海外交流プログラム

（機械工学専攻 長谷川 洋介）

15:50～17:40 パネルディスカッション

“人材育成、産学連携”

（モデレータ：航空宇宙工学専攻 中須賀 真一、
システム量子工学専攻 吉村 忍）

17:40～17:50 閉会の挨拶

（アドバイザー委員会委員長 木村 好次）

※講演題目等、詳細は本拠点HP

（<http://www.mechasys.jp/>）をご覧ください。

なお、ご参加には事前登録が必要となります。

http://www.mechasys.jp/activity/form/form2007_11_30.html

問合せ先：東京大学21世紀COEプログラム

機械システム・イノベーション事務局

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

Tel/Fax: 03-5841-7437

募集

募集

本部国際連携グループ

平成 20 年度東京大学国際学術交流助成事業 募集について

標記事業は、従来「東京大学基金による国際交流助成事業」という名称で助成対象を募集していましたが、今後助成金の原資を東京大学基金から大学運営費に移し替えることとなり、それに伴い助成事業の名称も「東京大学国際学術交流助成事業」と変え平成 20 年度分を募集することとなりました。ついては、応募を希望する場合は、募集要項をご確認の上、各事業の所属部局提出期限までに所属部局担当係等を通じ、本部国際連携グループまで必要書類を提出願います。

申請手続等詳細につきましては、各部局担当係へお問い合わせください。

各事業とも、選考に当たって必要な場合は、ヒアリングを実施することもあります。

募集要項及び申請書類は次の URL にて閲覧・ダウンロードが可能です。

http://www.u-tokyo.ac.jp/res02/d03_05_01_j.html

【今回募集する事業】

- 平成 20 年度東京大学海外学術交流拠点設置・運営経費助成事業
- 平成 20 年度東京大学シンポジウム開催経費助成事業
- 平成 20 年度東京大学ジョイント・フォーラム開催経費助成事業
- 平成 20 年度東京大学長期派遣経費助成事業

平成 20 年度東京大学海外学術交流拠点設置・運営経費 助成募集要項

1. 趣 旨

国際化の進展に伴い本学における教育・研究の一層の推進に寄与するため、海外での教育・研究の推進、当該国の学術団体・高等教育研究機関との間の学術交流の調整・推進、本学の教職員・学生等関係者に対する便宜供与などの目的をもった海外における学術交流の基地となる海外学術交流拠点（以下、「海外拠点」という。）の設置（事前調査を含む）及び運営に対して、必要な経費の一部を助成するものである。

2. 申請資格

海外拠点設置（計画）の代表者である本学の教授又は准教授

3. 助成期間

3 年以内（学術研究奨励資金及び東京大学基金による同名の助成を受けた期間を含める。また、昨年度に引き続き助成を希望する場合も、再度申請をするものとする。）

4. 助成の対象となる要件

- （1）東京大学の国際戦略上、重要度が高いものであること。
- （2）助成期間終了後の運営体制が検討されているものであること。

5. 助成の対象となる経費

- （1）海外拠点開設のための事前調査に係る経費（旅費、謝金等）
- （2）海外拠点への教員の派遣旅費
- （3）海外拠点運営経費（消耗品費、謝金、設備備品費、建物借料等執行可能なもの。）

※（1）及び（2）の場合の旅費は、本学から訪問先研究機関までの最も経済的な通常の経路及び方法による旅行に必要な往復航空賃（エコノミークラスのディスカウント運賃）、往復鉄道賃等（本学から最寄りの空港までとする）、滞在費（東京大学旅費規程による日当、宿泊料）及び空港施設使用料とする。

6. 助成額及び採択予定件数

1 海外拠点当たり、400 万円を限度とし、採択件数は、3 件程度を予定している。

7. 申請手続及び提出期限

代表者は、別紙様式 1（昨年度に引き続き助成を希望する場合は、別紙様式 2）により、所属部局長を通じて総長あて提出すること。なお、各部局内においての提出期限については、各部局事務担当に問い合わせること。

部局長においては、提出書類を取りまとめの上、平成 19 年 11 月 30 日（金）までに総長宛提出すること。なお申請が複数の場合は、順位を付した上で提出のこと（様式任意）。

8. 選考方法及び採否の通知

選考は、「東京大学国際委員会」の「国際学術交流助成専門委員会」が行い、採否の結果は平成 20 年 2 月下旬までに代表者の所属部局長あて通知する。なお、選考に当たって必要な場合は、ヒアリングを実施することもある。

9. 報告書の提出

代表者は、別紙様式3により、平成21年4月末日までに、所属部局長を通じて総長あて提出すること。（様式については、採択通知に添付する。）

10. 申請書等送付先

本部国際連携グループ

平成20年度 東京大学シンポジウム開催経費助成募集要項

1. 趣 旨

学際的でやや規模の大きい国際研究集会を「東京大学シンポジウム」として開催することとし、そのために必要な経費の一部を助成するものである。

2. 申請資格

本学の教授、准教授、講師又は助教とする。

3. 対象分野

人文、社会及び自然科学の全分野

4. 助成の対象となる要件

- (1) 学術的に重要かつ緊急度が高く、東京大学の名称を冠するにふさわしいものであること（ただし、学会主催による国際会議等を除く）。
- (2) 特定の主題について、内外の研究者が学術的発表及びそれに関する討議を行い、その分野の研究を増進することを目的とするものであること。
- (3) 日本側の主要メンバーは、本学教員であること。
- (4) 主催にかかる運営の学内体制が十分に確保されるものであること。
- (5) 平成20年度中に開催されるものであること。
- (6) 主たる経費の出途が本助成金によるものであること。

5. 助成の対象となる経費

- (1) 外国人招待講演者の旅費（日当・宿泊料を含む）並びに外国人一般参加者の滞在費（日当・宿泊料）
 - (2) 国内の学外招待講演者の旅費（日当・宿泊料を含む）
 - (3) 学外招待講演者の講演謝金（主として外国人参加者）
 - (4) シンポジウム開催に直接必要な印刷（製本）費、通信運搬費、会場借料等
- 注）本学の教員は招待講演者とみなされないので講演謝金は支給されない。また、原則として、旅費も支給されない。

6. 助成額及び採択予定件数

1件の助成額は、400万円を限度とし、採択件数は、3件程度を予定している。

7. 申請手続及び提出期限

開催責任者は、別紙様式1一部を、当該シンポジウムの概要（サーキュラー等）の資料があれば添付し、所属部局長を通じて総長あて提出すること。なお、各部局内においての提出期限については、各部局事務担当に問い合わせること。部局長においては提出書類を取りまとめの上、平成19年11月30日（金）までに総長あて提出すること。なお申請が複数の場合は、順位を付した上で提出のこと（様式任意）。

8. 選考方法及び採否の通知

選考は「東京大学国際委員会」の「国際学術交流助成専門委員会」が行い、採否の結果は平成20年2月下旬までに、開催責任者の所属部局長あて通知する。なお、選考に当たって必要な場合は、ヒアリングを実施することもある。

9. 報告書の提出

開催責任者は、シンポジウム終了後1ヵ月以内に別紙様式2一部を所属部局長を通じ速やかに総長あて提出すること。（様式については採択通知に添付する。）

10. 申請書等送付先

本部国際連携グループ

平成20年度 東京大学ジョイント・フォーラム開催経費助成募集要項

1. 趣 旨

本学と海外の優れた大学等と共催で行われるフォーラム等の開催に必要な経費の一部を、助成するものである。

2. 申請資格

ジョイント・フォーラム開催（計画）の代表者である本学の教授又は准教授とする。

3. 対象分野

人文、社会及び自然科学の全分野

4. 助成の対象となる要件

- (1) 海外の大学・研究機関等で開催されるものであること。
- (2) 学術的に重要かつ緊急度が高く、東京大学が海外の大学等と共催するにふさわしいものであること（ただし、学会主催による国際会議等を除く）。
- (3) 特定の主題について、内外の研究者が討議を行い、その分野の研究を増進することを目的とするものであること。
- (4) 日本側の主要メンバーは、本学教員であること。
- (5) 主催にかかる運営の学内体制が十分に確保されるものであること。

(6) 平成 20 年度中に開催されるものであること。

5. 助成の対象となる経費

- (1) 本学教員の派遣旅費（日当、宿泊料を含む）
- (2) 学外招待講演者の旅費（日当、宿泊料を含む）
- (3) 学外招待講演者の講演謝金
- (4) ジョイント・フォーラム開催に直接必要な経費（印刷（製本）費、通信運搬費、会場借料等執行可能なもの）

注）本学の教員は招待講演者とみなされないので講演謝金は支給されない。

6. 助成額及び採択予定件数

1 件の助成額は、200 万円を限度とし、採択件数は、4 件程度を予定している。

7. 申請手続及び提出期限

開催責任者は、別紙様式 1 一部を、当該フォーラムの概要（サーキュラー等）の資料があれば添付し、所属部局長を通じて、総長あて提出すること。なお、各部局内においての提出期限については、各部局事務担当に問い合わせること。部局長においては、提出書類を取りまとめの上、平成 19 年 11 月 30 日（金）までに総長あて提出すること。なお、申請が複数の場合は、順位を付した上で提出のこと（様式任意）。

8. 選考方法及び採否の通知

選考は「東京大学国際委員会」の「国際学術交流助成専門委員会」が行い、採否の結果は平成 20 年 2 月下旬までに、開催責任者の所属部局長あて通知する。なお、選考に当たって必要な場合は、ヒアリングを実施することもある。

9. 報告書の提出

開催責任者は、フォーラム終了後 1 ヶ月以内に別紙様式 2 一部を、所属部局長を通じ速やかに総長あて提出すること。（様式については採択通知に添付する。）

10. 申請書等送付先

本部国際連携グループ

平成 20 年度 東京大学長期派遣経費助成募集要項

1. 趣 旨

本学の教員が、海外の優れた大学等学術研究機関において一定期間研究を行うことにより、独創的・先端的学術研究の推進に資するとともに学術研究の進展に寄与することを目的とし、教員の長期派遣に際し、必要となる経費の一部を助成するものである。

2. 申請資格

本学の教授、准教授、講師及び助教

なお、東京大学学術研究奨励資金及び東京大学基金による長期派遣経費助成事業（平成 14 年度、15 年度及び 18 年度、19 年度に実施）、並びに文部科学省及び日本学術振興会の同種の事業（例えば文部科学省の「在外研究員」及び「大学教育の国際化推進プログラム」並びに日本学術振興会の「海外特別研究員」など）により、過去 10 年間に継続して 2 ヶ月以上海外に派遣されたことのある者を除く。

3. 期 間

平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日までの期間に出発するもので、原則として渡航期間が 2 ヶ月以上 6 ヶ月以内とする。

4. 助成経費及び助成予定件数

派遣旅費（日当及び宿泊料を含む）を助成する。助成金額は 1 件当たり、200 万円を限度とし、助成件数は 6 件程度を予定している。

※派遣旅費：本学から訪問先研究機関までの最も経済的な通常の経路及び方法による旅行に必要な往復航空運賃（エコノミークラスのディスカウント運賃）、鉄道等往復運賃（本学から最寄りの空港までとする）、空港施設使用料、滞在費（東京大学旅費規程による日当、宿泊料）とする。

5. 申請手続及び提出期限

申請者は、別紙様式 1－1、1－2 及び 1－3 により、所属部局長を通じて総長あて提出すること。なお、各部局内においての提出期限については、各部局事務担当に問い合わせること。

部局長においては、提出書類を取りまとめの上、平成 19 年 11 月 30 日（金）までに総長あて提出すること。なお、申請が複数の場合は、順位を付した上で提出のこと（様式任意）。

6. 選考方法及び採否の通知

選考は「東京大学国際委員会」の「国際学術交流助成専門委員会」が行い、採否の決定は平成 20 年 2 月下旬までに申請者の所属部局長あて通知する。なお、選考に当たって必要な場合は、ヒアリングを実施することもある。

7. 報告書の提出

申請者は別紙様式 2 により、渡航の終了後、速やかに所属部局長を通じて総長あて提出すること。

8. 申請書等送付先

本部国際連携グループ

9. 備考

文部科学省及び日本学術振興会の同種の事業に申請中の者の本事業への申請は可能であるが、本事業の採択決定後、上記同種の事業で申請が採択され助成を受けることとなった場合は、本事業の採択辞退届（様式任意）を、速やかに所属部局長を通じて総長あて提出すること。

お知らせ

お知らせ

総合研究博物館

東京大学創立 130 周年記念事業特別展示『異星の踏査—「アポロ」から「はやぶさ」へ』展のお知らせ

10月20日（土）から12月26日（水）まで、総合研究博物館では、東京大学創立130周年記念事業特別展示『異星の踏査—「アポロ」から「はやぶさ」へ』展を開催します。

人類はこれまで月とビルト第二彗星という2つの天体の標本採取に成功しました。今回の展示では、この2つの天体の本物の標本が同時に公開されます。月の標本はアポロ計画で宇宙飛行士が持ち帰った月の石。その中でもアポロ15号による「海」の石で、日本初公開となります。JAXAの月探査衛星「かぐや」の探査データが公開する時期にあわせて公開できる運びとなりました。ビルト第二彗星の標本は、NASAのスターダスト計画によって昨年取得されたもので、日本初公開です。人類が初めて直接手にした、月以外の標本として注目されます。こうした標本を惑星探査に実際に係わりながら研究を行っている研究者らが、太陽系について人類が得た研究成果の最前線を、圧倒的な量の画像データとともに紹介します。

また旧館では常設展示『「Systema naturae」—標本は語る—』展を、2F展示ルームでは東京大学創立130周年記念事業『ユビキタスコンピューティング技術と博物館』展を開催します。

- 会期：10月20日（土）～12月26日（水）
- 休館日：月曜日（祝日の場合は開館、翌日休館）
12月27日（木）～平成20年1月5日（土）、
10月27日（土）
- 開館時間：10:00～17:00（入館は16:30まで）
- 会場：総合研究博物館
- 入場料：無料
- 問合せ：ハローダイヤル 03-5777-8600

URL:<http://www.um.u-tokyo.ac.jp>

お知らせ

本部学生支援グループ

本年度第1回「東京大学総長賞」受賞者決定及び授与式のご案内

学生表彰選考委員会（委員長 神野直彦経済学研究科教授）は、今年度第1回表彰の実施に向けて、本学各方面から推薦された合計26件の候補者を慎重に選考審査し、以下の個人2名及び2団体を選出しました。

授与式は、下記の日時に開催し、受賞者への表彰状及び記念品の授与、総長の挨拶、各受賞者（個人・団体）からのプレゼンテーション等が行われる予定です。

なお、授与式はどなたでもご参観いただけます。多数の学生・教職員による祝福の場といたく、奮ってのご参加をお待ちしています。

1. 受賞者

【個人の部】

ボリジギン・セルゲレンさん（法学政治学研究科博士課程3年）

「中国・内モンゴル砂漠化防止植林活動」

茂木 堯彦さん（工学部4年）

「オリエンテーリング競技におけるジュニア世界選手権代表、ユニバーシアード代表、日本学生選手権ロングディスタンス競技部門優勝等優秀な成績」

【団体の部】

東京大学乗鞍サマースクール

「50年にわたる乗鞍サマースクールの活動」

東京大学運動会漕艇部

第85回全日本選手権男子舵手付きペアクルー

「本学として11年ぶりの全日本選手権男子舵手付きペア種目優勝」

2. 授与式

日 時：10月23日（火）
17:00～18:00

場 所：大学院数理科学研究科大講義室
（駒場キャンパス）

【本件に関するお問い合わせ】

担当：本部学生支援グループ

学生生活チーム（小林・宮内）

内線：21205・22514

E-mail：gakuseiseikatsu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp



昨年度記念撮影の様子

お知らせ

情報基盤センター

“データベースユーザトレーニング” 特別開催のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、レポート・論文作成や学習・研究に役立つ“情報探索ガイダンス”各種コースを実施します。

11月は、事典・辞書などを一括検索できるツール「JapanKnowledge 活用講座」（会場：駒場）と、インターフェースが新しくなった「LexisNexis Academic 講習会」（会場：本郷）を開催します。データベースの提供元から講師を招いて、実習形式の講習を行います。

本学にご所属であればどなたでも参加できます。

●申込方法：

※予約が必要です。先着順ですので、お早めに、下記のサイトからお申し込みください。

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

●スケジュールとコース概要：

＜JapanKnowledge 活用講座＞（90分）

■日 時：11月1日（木）14:40～16:10

■講 師：（株）ネットアドバンス 山本京子氏

■会 場：駒場キャンパス 駒場図書館地下1階
会議室（定員24名）

JapanKnowledge（ジャパンナレッジ）とは：

国内の百科事典・辞事典を中心に構築された、日本最大の知識データベースです。日本大百科全書、日本人名大辞典、imidas（イミダス）、現代用語の基礎知識、大辞泉、ランダムハウス英和大辞典などの一括検索や、東洋文庫、会社四季報、週刊エコノミストの全文閲覧などができます。

＜LexisNexis Academic 講習会＞（90分）

■日 時：11月14日（水）15:00～16:30

■講 師：レクシスネクシス・ジャパン（株）より

■会 場：本郷キャンパス 総合図書館1階 講習会
コーナー（定員12名）

LexisNexis Academic とは：

News（世界各国の新聞、雑誌、通信記事、ニュース

レター、テレビ放送内容）、Business（ビジネス誌、企業情報、産業ニュース、SEC 関連書類）などを収録した総合データベースです。10月よりインターフェースが新しくなりました。

詳細は下記のサイトをご覧ください。

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

●問い合わせ：

学術情報リテラシー係

03-5841-2649（内線：22649）

literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

お知らせ

附属図書館

創立130周年記念事業「東京大学創立130周年・ 総合図書館再建80周年記念 特別展示会 — 世界から贈られた図書を受け継いで—」の開催

今年、東京大学は明治10年の創立より数えて130周年の記念すべき年を迎えましたが、図書館も同じ年に設置されていますので、この130年間、大学と共に歩んできたことになります。

一方、現在の総合図書館の建物は、昭和3年に再建されたものです。大正12年9月1日の関東大震災による崩壊と火災で、それまでの蔵書と建物は灰燼と化してしまいましたが、国内外からの温かい励ましと援助を受け、図書館は現在の姿に再生されました。そこで、東京大学創立130周年と総合図書館再建80周年を迎えるに当たり、大震災後の復興時に贈られた図書を公開し、改めて感謝の意を表すことにしました。

寄贈は国内外の個人ばかりでなく国からもありました。総数50余万冊と言われる寄贈書の中から、鵬外の書き込みがあるレクラム文庫、本阿弥光悦の直筆短冊、稀代のコレクター田中芳男の蒐集品、18世紀に創作された「ボドーニ」活字で刷った大判本、高野長英の直筆本さらにはモースの『日本その日その日』の活字（電鋳版）など、幅広く、そしてこれまであまり目に触れなかった図書を選んで展示します。

＜特別展示＞

期 日：11月1日（木）～14日（水）

（土・日・祝日も開催）

時 間：10:00～18:00（11月9日は20:00まで）

場 所：総合図書館3階（入場無料）

＜記念講演会＞

演 題：世界からの贈り物を受け継いで

—東京大学総合図書館の生い立ちと発展—

日 時：11月9日（金）18:00～19:00

場 所：総合図書館3階大会議室

（入場無料・申込不要）

講 師：高野 彰

跡見学園女子大学文学部人文学科教授

お問合せ先：附属図書館情報サービス課・専門員

Tel 03-5841-2640

お知らせ

附属図書館

総合図書館備付け図書の推薦について (平成 19 年度冬学期)

総合図書館では、学生の学習・研究を助け、また教養をより豊かにするために、全学の教員（常勤講師以上）から図書を推薦していただく制度を設けております。

つきましては、下記のとおり図書の推薦をお願いいたします。

1 取りまとめ窓口 各部局図書館（室）

2 推薦期限 11 月 2 日（金）

なお、その他の図書の推薦は随時受け付けます。

3 推薦図書の範囲

(1) 講義に密着した図書は、本郷キャンパスの講義を対象としています。

(2) その他、学生の教養書としてふさわしいものを推薦ください。

ただし、雑誌および学生にとってあまりに高度な専門図書、医学・薬学臨床系図書は除いてください。

4 推薦方法

総合図書館備付け図書推薦要領によります。

※推薦要領は、各部局図書館（室）に備付けております。

※附属図書館 Web サイト

(<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/>)

「ニュース」にある「総合図書館備付け図書の推薦受付について」もご参照ください。

お知らせ

情報基盤センター

“留学生向け情報探索ガイダンス”開催のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、中国語・韓国語・英語・日本語で行う「留学生向け情報探索ガイダンス」を開催します。

レポート・論文作成に役立つ、データベースを使った図書や雑誌論文の探し方を、パソコンを使いながら実習形式で行います。

留学生のみなさんのご参加をお待ちしています。また、入門的な内容ですので、留学生に限らず、初心者の方の日本語コースのご参加も歓迎します。本学にご所属であればどなたでも参加できます。

■会 場：

本郷キャンパス 総合図書館 1 階 講習会コーナー
(定員 12 名)

■日 時：

- ・中国語コース 11 月 7 日（水）15:00～16:00
- ・韓国語コース 11 月 13 日（火）15:00～16:00
- ・英語コース 11 月 16 日（金）15:00～16:00
- ・日本語コース 11 月 22 日（木）15:00～16:00

※予約不要です。直接ご来場ください。

詳細は下記のサイトをご覧ください。

(中国語)

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/c/training-c.html>

(韓国語)

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/k/training-k.html>

(英語)

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/e/training-e.html>

(日本語)

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

●問い合わせ：

学術情報リテラシー係

03-5841-2649（内線：22649）

literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

第 112 回オルガン演奏会の開催

教養学部では、恒例のオルガン演奏会を次のとおり開催いたします。このたびは、ドイツに在住し国際的に活躍なさっている吉田文さんをお迎えし、バッハをはじめとするオルガン曲の数々をお楽しみいただきます。なお、このたびのバッハは、編曲ばかりでなく、未完の作品を補作した曲目が数多く演奏されます。どうぞご期待ください。

入場は無料です。ホームページを開設しておりますので、ぜひご覧ください。

<http://organ.c.u-tokyo.ac.jp>

日 時 11 月 8 日（木）18 時 30 分開演（18 時開場）

場 所 教養学部 900 番教室（講堂）

曲 目 J・S・バッハ
 幻想曲 ハ長調 (BWV 573)
 (マイヤー=フィービヒ補作)
 管弦楽組曲 第3番 ニ長調 (BWV 1068) より
 G線上のアリア (カルク=エラート編曲)
 コラール前奏曲 (シュトックマイヤー補作)
 「イエス、わが喜び」 (BWV 753)
 「いたまし、なげかし」 (BWV なし)
 「輝く暁の明星のいと美しきかな」 (BWV 764)
 カンタータ 147番 「心と口と行いと命もて」
 より 第10曲 (「主よ、人の望みの喜びよ」)
 幻想曲とフーガ ハ短調 (BWV 562a)
 (マイヤー=フィービヒ補作)
 D・ミヨー
 小組曲
 F・メンデルスゾーン
 アンダンテ ニ長調
 E・グリーゲ
 音の詩画集
 (マイヤー=フィービヒ編曲)
 J・S・バッハ
 6つの無伴奏ヴァイオリンソナタとパルティータ (BWV 1004) より パルティータ 第2番
 ニ短調 第5楽章 シャコンヌ
 (マイヤー=フィービヒ編曲)

演 奏 吉田文 (オルガン)

(大学院総合文化研究科・教養学部オルガン委員会)

お知らせ

生産技術研究所

平成 19 年度千葉実験所公開のご案内

本所千葉実験所は、駒場Ⅱキャンパスでは実施が難しい大規模な実験の研究やフィールドテストのための附属施設です。恒例となりました実験所公開を11月9日(金)に予定しております。進展の著しい研究活動と設備の充実した研究実験棟等を是非この機会にご覧ください。

日時：11月9日(金) 10:00～16:00

場所：東京大学生産技術研究所 千葉実験所
 JR 総武線 西千葉駅北口下車 約 250m

駒場Ⅱキャンパスより大型バス(東武観光)が出ます。
 ご利用の方は下記へお申し込みください。
 行き 正門正面 13号館前(時計台の建物)
 9:30 出発
 帰り 千葉実験所事務棟前

16:00 出発予定

申込先 第2部 林昌奎

(内線：56208、rheem@iis.u-tokyo.ac.jp)

特別講演

- ◆千葉実験所における ITS、ビークル制御の研究展開
 須田義大教授(千葉実験所長)
 デモンストレーション
- ◆電気自動車(堀研究室)
- ◆海中ロボット(浦研究室)

公開テーマと研究室

- ◆近年の地震被害-地盤に刻まれた情報の解読-
 小長井・ヨハンソン研究室
- ◆建物の動的破壊を追う
 中埜研究室
- ◆水中を自在に泳ぎ回る自律型海中ロボット
 浦研究室
- ◆突発的巨浪の脅威とメカニズム
 木下研究室
- ◆“超”を極める射出成形—最新研究成果の公開—
 井研究室
- ◆プロペラファン空力騒音の予測
 加藤(千)研究室
- ◆ビークルシステムダイナミクスの展開
 須田研究室
- ◆ITSとLRT試験装置
 須田・中野研究室・ITSセンター
- ◆熱間加工材質変化に関する研究
 柳本研究室
- ◆マイクロ波レーダによる海洋波浪観測
 林研究室
- ◆沖合沈下式養殖システム
 北澤・木下研究室
- ◆すぐに充電できる電気自動車C-COMSを体験しよう！
 堀研究室
- ◆特殊電子ビーム溶解装置を用いたシリコンスクラップの高度再利用技術の開発
 前田研究室
- ◆持続可能なバイオマス活用システムと要素技術の開発
 迫田・望月研究室
- ◆コンクリート構造物の安全性確保のための非破壊検査と補修
 岸・加藤(佳)研究室
- ◆ホワイト・ライノとミニ・ライノ
 藤井(明)研究室/川口研究室
- ◆次世代空調システムの開発
 加藤(信)・大岡研究室
- ◆バイオマス物流システムの開発
 野城研究室
- ◆剛な一体型壁面を有する補強土擁壁工法の耐震性

古関研究室

◆既存不適格構造物の耐震補強を推進させる制度
と技術 ～先進国と途上国を対象として～

目黒研究室

◆地球水循環と社会 ～今日の洪水と世紀末の水需
給～ (Part II)

沖・鼎研究室

◆伝統木造建築から高層木造建築まで
腰原研究室

◆巨大都市の安全性向上をめざして
—都市基盤安全工学国際研究センター (ICUS) の活動
—ICUS

◆ITS (高度道路交通システム) に関する研究
先進モビリティ連携研究センター (ITS センター)

お知らせ

大学院理学系研究科・理学部

第 57 回小石川植物園市民セミナーのご案内

小石川植物園後援会が主催する第 57 回小石川植物園市民セミナーが下記の通り開かれます。今回は、本学大学院農学生命科学研究科の経塚淳子准教授による、イネの穂の形づくりに関する講演です。最先端の植物科学研究に気軽に触れられる、絶好の機会です。本学関係者に限らず、どなたでも参加できます。どうぞ皆様お誘い合わせの上、是非ご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

講師：経塚 淳子（農学生命科学研究科准教授）

演題：「実りの秋…イネ穂の形を決める遺伝子のしくみ」

日時：11 月 10 日（土）13:00 ～ 15:00

場所：理学系研究科附属植物園本園（小石川植物園）
柴田記念館

参加費：無料（但し、一般の方は入園料が必要です）

参加申込方法：11 月 5 日（月）までに往復葉書または電子メールにて後援会までお申し込み下さい。返信葉書ないし返信メールが招待状となります。なお参加ご希望多数の際は、お申し込み順に受付が締め切られることがあります。悪しからずご了承下さい。

主催・参加申込先：〒 112-0001 文京区白山 3-7-1
東京大学大学院理学系研究科附属植物園内
小石川植物園後援会
koishikawa-koenkai@koishikawa.gr.jp

問い合わせ先：理学系研究科附属植物園
杉山宗隆准教授（03-3814-0368）

岩崎 成夫 名誉教授

岩崎成夫先生は、2007年9月6日（木）スイス、チューリッヒにてご逝去されました。享年71歳でした。

先生は1936年6月21日に旧満州にお生まれになり、都立北園高等学校を経て、1961年3月に本学薬学部薬学科を卒業されました。同年4月本学大学院化学系研究科薬学専門課程修士課程に進学、1963年3月同修士課程を修了、同年4月同博士課程に進学、1965年4月より同大学院を休学し、スイス連邦立理工科大学（ETH Zurich）に1968年5月まで留学しました。同年10月にETH 理学博士（Ph.D）の称号を授与されました。1968年3月に本学大学院を退学、1968年5月、本学応用微生物研究所に助手として採用され、1978年11月同助教授、1988年2月同教授に昇任、1993年4月研究所の改組により分子細胞生物学研究所教授・生体有機化学研



究分野主任、1997年3月に定年退官されました。1988年4月より1年間本学総長補佐、1995年4月からの2年間は、分子細胞生物学研究所長及び本学評議員を併任され、大学の管理運営にご尽力されました。

先生のご研究は、特に微生物代謝産物を中心とした天然物化学に力を注がれましたが、中でも微小管機能阻害物質に関する研究においてもっとも顕著な功績を残され、この業績に対して、1997年度日本薬学会賞を授与されました。

先生は、学会活動においても持ち前の能力を発揮され、応用微生物学研究奨励会の評議員・理事・顧問を長く務められました。また、東北大学・千葉大学・九州大学の薬学部非常勤講師、北里大学北里生命科学研究所客員教授、日本薬学会の関東支部幹事・ファルマシア編集委員・評議員・理事を歴任され、その発展に大きく貢献されました。

温厚で飾らず、いつもにこやかに教職員と親しく過ごされた先生の面影を偲びつつ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

（分子細胞生物学研究所）

人事異動（教員）

発令日、部局、職、氏名（五十音）順

発令日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退 職）			
19.9.10	本田 公	辞 職	大学院数理科学研究科准教授
19.9.30	内田 貴	辞 職（法務省民事局参事官）	大学院法学政治学研究科教授
19.9.30	岸本 美緒	辞 職（お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科教授）	大学院人文社会系研究科教授
19.9.30	銭 志熙	辞 職	大学院人文社会系研究科教授
19.9.30	岡山 裕	辞 職	大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター准教授
19.10.1	相馬 宣和	出向期間満了（産業技術総合研究所）	先端科学技術センター准教授
（採 用）			
19.9.21	田中 亘	社会科学研究所准教授	
19.10.1	田中 輝幸	大学院医学系研究科准教授	国立成育医療センター研究所成育社会医学研究部生態学研究室長
19.10.1	石川 幹子	大学院工学系研究科教授	
19.10.1	李 簡	大学院人文社会系研究科准教授	
19.10.1	小澤 岳昌	大学院理学系研究科教授	自然科学研究機構分子科学研究所准教授
19.10.1	鹿毛 利枝子	大学院総合文化研究科准教授	神戸大学大学院法学研究科准教授
19.10.1	諏訪部 浩一	大学院総合文化研究科准教授	東京学芸大学教育学部准教授
19.10.1	Ivanov Alexander Anatolievich	大学院数理科学研究科教授	
19.10.1	齊藤 宣一	大学院数理科学研究科准教授	富山大学人間発達科学部准教授
19.10.1	小西 由也	先端科学技術研究センター准教授(出向)	産業技術総合研究所エネルギー技術研究部門太陽光エネルギー変換グループ主任研究員
（昇 任）			
19.10.1	火原 彰秀	生産技術研究所准教授	大学院工学系研究科講師
19.10.1	岩本 敏	先端科学技術研究センター准教授	先端科学技術研究センター講師
（兼 務）			
19.10.1	伊藤 元重	大学院経済学研究科長 経済学部長	大学院経済学研究科教授

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。

Contents

特集

- 02 「東京大学目安箱」、投書 130 件を突破！
— あなたのギモンに答えます —

NEWS

一般ニュース

- 04 部局長の交代
04 東京大学生命科学研究ネットワーク
東京大学生命科学研究ネットワーク・シンポジウム 2007「生命科学・知の構造化」
05 本部研究推進グループ
「東京大学稷門賞」授賞式を挙行
06 本部学生支援グループ
東京大学創立 130 周年記念親善レガッタ、開催される
07 男女共同参画室
男女共同参画オフィスが本部棟 9 階に新設されました！

部局ニュース

- 08 大学院農学生命科学研究科・農学部
“弥生インターナショナルデー 2007” の開催
09 大学院工学系研究科・工学部
「夏休み航空宇宙工学教室 2007」の開催
09 留学生センター
日本語教育集中・特別コース 2007 年度夏学期
修了証書授与式行われる
10 大学院工学系研究科・工学部
航空宇宙工学専攻、工学教育賞「文部科学大臣賞」
受賞
10 大学院農学生命科学研究科・農学部
附属牧場の新しい種牡馬を紹介しします
11 医学部附属病院
「附属病院 大震災対応への一斉防災訓練」、実施
される
11 大学院農学生命科学研究科・農学部
安全衛生管理室が移転お披露目式を開催
12 大学院農学生命科学研究科・農学部
弥生講堂が優良防火対象物に

コラム

- 13 発掘！総長室総括委員会
～東大に生まれる新組織たち～ 第 2 回
14 サステナな日々
～キャンパスから考えるサステイナビリティ～ vol.2
15 Step by Step 東大基金通信 第 6 回
16 Crossroad ～産学連携本部だより～ vol.23
17 インタープリターズ・バイブル vol.10
17 コミュニケーションセンターだより No.40
18 Relay Column「ワタシのオシゴト」 第 20 回
19 噴水 東大OB明石顕選手世界陸上 50km 競歩で
16 位
20 噴水 教育学部附属中等教育学校、水泳・陸上で
全国大会出場
教育学部附属中等教育学校で银杏祭、実施
される
21 噴水 新たなコミュニケーションの機会に
～先端研で RCAST 屋台村営業中！

INFORMATION

シンポジウム・講演会

- 22 生産技術研究所、大学院総合文化研究科・教養学部
第 3 回駒場キャンパス技術発表会 開催のお知らせ

- 22 大学院農学生命科学研究科・農学部
東京大学創立 130 周年記念事業
第 33 回東京大学農学部公開セミナー
23 大学院理学系研究科・理学部
第 12 回理学部公開講演会
23 東洋文化研究所
シンポジウム「第 3 回アジア古籍保全講演会」
23 物性研究所
創立 50 周年記念シンポジウム開催のお知らせ
24 東京大学 21 世紀 COE プログラム「機械システム・イノベーション」
総括シンポジウム—機械工学が拓く未来：技術を極め、人を育てる—開催のご案内

募集

- 25 本部国際連携グループ
平成 20 年度東京大学国際学術交流助成事業
募集について

お知らせ

- 28 総合研究博物館
東京大学創立 130 周年記念事業 特別展示『異星の踏査—「アポロ」から「はやぶさ」へ』展
のお知らせ
28 本部学生支援グループ
本年度第 1 回「東京大学総長賞」受賞者決定
及び授与式のご案内
29 情報基盤センター
“データベースユーザトレーニング”
特別開催のお知らせ
29 附属図書館
創立 130 周年記念事業「東京大学創立 130 周年・
総合図書館再建 80 周年記念 特別展示会 —
世界から贈られた図書を受け継いで—」の開催
30 附属図書館
総合図書館備付け図書の推薦について
(平成 19 年度冬学期)
30 情報基盤センター
“留学生向け情報探索ガイダンス” 開催のお知らせ
30 大学院総合文化研究科・教養学部
第 112 回オルガン演奏会の開催
31 生産技術研究所
平成 19 年度千葉実験所公開のご案内
32 大学院理学系研究科・理学部
第 57 回小石川植物園市民セミナーのご案内

- 33 訃報 岩崎成夫名誉教授

- 34 人事異動 (教員)

淡青評論

- 36 東大には表札がない

◆表紙写真◆ 東京大学創立 130 周年記念
親善レガッタの風景 (6 ページに関連記事)

編集後記

秋の通勤時、ふと香り癒される金木犀。原産は中国で、
同じ木犀科には銀木犀もあるそうです。芳香はやはり金
の方が勝るとか。長く楽しみたいものです。(た)



七徳堂鬼瓦

東大には表札がない

5年ほど前に中国から来た客人たちに指摘されて初めて気づいたのだが、東大（本郷キャンパス）には表札がない。一般に、中国の大学には毛沢東ら偉人が揮毫した立派な表札がかかっている。客人たちは東大にも当然どこかに表札があるはずだと思って、そこで記念写真を撮ろうと探していたらしいのだが、どこにも見あたらないというのだ。

たしかに赤門にも正門にも表札はなく、前の横断歩道にかかる信号機の下に表示で辛うじて赤門や正門だとわかるにすぎない。この機会に、懷徳門、春日門、龍岡門、池之端門、弥生門、西方門と、本郷キャンパスをぐるっと回ってみたが、唯一2006年に再建された鉄門に真新しい「東京大学」という表札がある以外はどこにも見あたらなかった。さらに、弥生キャンパスと浅野キャンパスも見したが、浅野南門に立派な表札があるのみだった。

ここまで表札が少ないと何か深い歴史的因縁でもあるのではないかと勘ぐりたくもなる。たとえば、「東大解体」を叫んだ全共闘が表札を破壊したとか。そこで、むかし全共闘だったという人に「先輩達がフンサイしたんですか？」と聞いてみた。だが、彼はそんな記憶はないといい、「もともと武家屋敷には表札はつけないものなのだ」とのたもった。

いずれにせよ表札はあった方がよいと思う。そのほうが来訪者に対して親切だ。記念写真を撮りたい観光客にも歓迎されるだろう。表札があれば、地方から来る受験生にも受験会場を間違えているのではという不安を与えないで済む。むかし某有名受験予備校の合格者リストでは東大に限って大学名は記さず、単に「文一」等と書いてあるだけだったが、表札をつけないのは「文一といえば東大文一に決まっているだろ、キミ」みたいな傲慢ささえ感じさせる。世界に向け、また道行く人々に向け、東大をアピールしていくためにも、表札をかけて、自分は誰かを示した方がよいと思う。

丸川 知雄（社会科学研究所）

（淡青評論は、学内の教職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

〔訂正〕

学内広報において、一部誤りがありましたので訂正いたします。

関係部局および関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。

No.1363（2007.9.14）

19 ページ：下から1行目

（誤）総長室総括委員会 HP：<http://www.cirp.u-tokyo.ac.jp>

（正）総長室総括委員会 HP：<http://cirp.u-tokyo.ac.jp>

23 ページ左段：上から5行目（執筆者職名）

（誤）総合文化研究科 准教授

（正）総合文化研究科 教授

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の手前を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、本部広報グループを通じて行ってください。

No.1364 2007年10月15日
東京大学広報委員会

〒113-8654

東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学本部広報グループ

TEL：03-3811-3393

e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

<http://www.u-tokyo.ac.jp>